



Sunrise Ministry

アンカー

Anchor



AND PRECIOUS B
SHED AWAY T

FALL ON JESUS
FALL ON JESUS
FALL ON JESUS AND LIVE

メガチャーチ (巨大教会) についての考察

天下分け目の大決戦!

七つの封印/王家の紋章

41号

2008年 6月

メガチャーチ (巨大教会)

Dr.ファイトの公演より

スティーブ&千里 井上

メガチャーチという名称をご存知でしょうか。しばらく前に、NHKのクローズアップ現代で「巨大教会が政治を動かす」という特集を組んでいたと聞いていますので、多くの方がご存知だと思います。メガチャーチとは、礼拝出席者が2,000人以上の教会を指しています。1960年には16か所でしたが、2000年以降は600に膨れ上がり、現在アメリカ全土で、すでに1,300ものメガチャーチが存在しています。その数は増え続けていて、ひとつの町にメガチャーチがあると、周辺の教会メンバーは吸い取られるようにメガチャーチに流れていき、小さい教会は消えていってしまうのだそうです。代表的なメガチャーチは、アメリカ最大級、テキサス州のレイクウッド教会 (メンバー4万7千人)、イリノイ州のウィロークリーク教会 (2万4千人)、南カリフォルニア州のサドルバック教会 (2万2千人) などです。

人数が多すぎて一度に礼拝をすることが不可能なので、ほとんどの教会は土、日の2日間5~6回に分けて礼拝をしています。私達の友人の何人かも出席していますが、楽しい、否定的な説教をしないので励まされ希望が与えられる、SDAの教会は退屈で帰れないと言います。また多くの人々はあのような規模の教会を運営し、人数も増え続けているのだから確かにこれは聖霊の働きだと賞賛しているのです。このような世評を複雑な思いで聞いていた時にDr.ファイトのお話をきくことができました。アメリカで年に一度行われているGeneral Youth Conference (総青年大会)のスピーカーの一人として、全世界から集まった何千人ものセブンスデー・アドベンチストの人々を前にして話された彼の説教の一部を要約、編集してお伝えしたいと思います。現代のプロテスタント教会のカリスマ的ムーブメントが、本当に聖霊の働きであり、賞賛すべきものなのか少しでもご理解いただければと願っています。



はじめに—この記事には、**ロバート・シューラー** (南カリフォルニアにある、クリスタル大聖堂、キリスト教会の牧師) という名前が多く出てきますが、メガチャーチのことを理解するのに、彼がキーパーソンになるからです。

ガラス張りの大聖堂



Crystal Cathedral

なぜなら彼こそメガチャーチの生みの親ともいえる人物であり、ロバート・シューラーInstitute (神学訓練機関のようなもの)を持ち、そこを卒業した牧師たちが (全員ではありませんが)、各地でメガチャーチを運営、指導しているのです。そしてアメリカ全土のみならず、世界中の教会指導者たちが、メガチャーチで行われているトレーニングセミナーで彼らの方法を学ぼうと集まってくるのです。はじめに言うと驚かれると思いますが、ロバート・シューラーはプロテスタント界の指導者的存在でありながら、黙示録の獣の傘下にある組織 (秘密結社)の最高位に属しているオカルト者です。

これからの話はとても誤解されやすく、特にSDAの人々はこのような話題を避けたいと思う人もいます。けれどもバビロンの中にいる人々は真実を知らないで、彼らに伝える必要があります。そうすることで彼らは前進することができるからです。ですから、これからの話は決して彼らを裁くためではなく、真実を伝えることを目的としています。「実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろそれを指摘してやりなさい。」

オカルト者は基本的に汎神論者です。その中心的存在の人々はルシファー崇拝者で、ルシファーに直接礼拝を捧げる人々です。彼らはサタンが真の神の子であると信じています。そればかりではなくイエスを忌み嫌っているのです。イエス・キリストの名を使って説教はします。けれどもルシファーはイエ

ス・キリストという名前を持っている、と彼らは言っているのです。実はルシファーのことを人々に説教しているのです。話はとても巧妙で、ほとんどの人はその説教を聞いてもイエスの話をしているのだと思います。見かけも聞こえも完璧なのです。ですから私たちは、その根底にある思想を理解しなければ、彼らを見分けることはとても難しいのです。

さて、まずロバート・シューラーがどのような思想を持っているのか、彼の言葉のいくつかをご紹介します（短く省略してあります）。「私たち様々な教会同士、お互いの違いは何も気にせず一致しよう。それぞれ譲歩すればいいのだから。」（彼はこの言葉の通り C U G M (clergy uniting for growth and ministry) というあらゆる宗派が合同協力して伝道をするを目的とした組織を創設しました。）けれどもこの考えは全く聖書的ではありません。そして彼らの目標は、この世に神の王国を築くことです。けれどもイエス様は、私の国はこの世のものではないと言われました。

この考えは異教の教えです。「何百年にもわたって、キリスト教は『人間中心』ではなく『神中心』にした間違いをしてきた。人間はそんなに悪くない、いや、私達人間は何とすばらしいことか、そのような高潔な人間性を罪人呼ばわりすることは侮辱である。」「私たち（教会の指導者）に必要なのは、すべての人間が持っている（自分を高めたいという）栄光への飢えを認めるという救いの神学である。」「（聖書の教えている）生まれ変わる、新生、という意味は、悲観的から楽観的に、劣等感から自尊へ、おそれから愛へ、疑いから信頼へ変わるということである。」「イエスは、人を罪人だと言った事は一度もない、それよりも宗教の力を用いて人々に罪悪感を持たせ、それによって彼らの当然持つべき人生を楽しむという尊厳を失わせてしまうことをイエスは非難しているのである。」「罪とは人間の自尊心を奪い取ってしまうような何らかの行為、また考えである。」「キリストの名の下で、キリスト教の旗の下で、行われてきたことはどのようなものであっても、人の個性に対して破壊的であり、それによって人々が失われてきた。人間を罪深い状態に気づかせようとするのは、福音伝道に逆効果であった。」「人間を失われた罪人と呼ぶことほど大きな害（悪）はない。」

また聖書中にある、高ぶりを戒めている言葉（箴言 8 : 13、16 : 5、ローマ 12 : 16、II テモテ 3 : 2）に対し「こんな聖句を使って説教をしてもらいたくない。なぜなら沢山の純粋な人々を傷つけて教会から去らせてしまうだろう。ただ聖書に書いてあるというだけで、それを説教すべきでない。」これらの驚くような発言はまだありますが、もし私達がこのような教えを受けたら救い主は必要でしょうか。人々をイエスに導くときに、自分が罪人であることを認め、受け入れることが出発点です。自分の

罪を認めないのならイエスなど全く必要でなくなります。それではイエスの十字架の犠牲についてはどのように言っているのでしょうか。「十字架はイエスの自己尊厳を神聖化し、それによって人間の自己尊厳も神聖化した。」「わたしがこの地から上げられる時にはすべての人をわたしのところに引き寄せる（ヨハネ 12 : 32）と言うとは、彼（イエス）は（自我で満ちて）うぬぼれていた。」またイスラム教は言っていますが、「イエスは十字架上で人類のために死なれたのではなかった。これは惑わしだ。神はイエスを死ぬ前に取られて、十字架で死んだのはただ普通の預言者で、マホメットより劣った人物であった。」なんとこの言葉にロバート・シューラーも同意しているのです。これらは神を汚す言葉であり、もちろんクリスチャンの言葉ではなく、悪魔的な言葉です。

ところでバチカンの正式声明の中のひとつに、人間は自分の救いに関して責任がある（つまり自分の努力で救いを獲得しなさい）という内容の文がありますが、彼らも全く同じ考えなのです。そして彼らが努力して救いを得ていくときに、彼らは神のようになるというのです。これはエデンの園での蛇（サタン）のメッセージです。「あなたがたの目が開け神のようになる。」

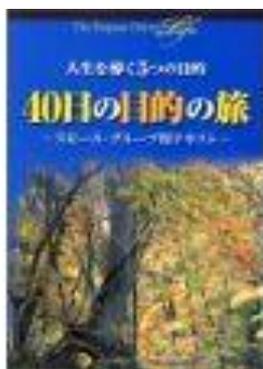
またフリーメイソン（秘密結社）の最高階級に属している、宗教界のオカルト者—**ロバート・シューラー、ビリー・グラハム、ノーマン・ビンセント・ピール**（彼らは親しい友人同士であり、プロテスタント界のリーダー的存在）は、自分のことを指す時に「I AM, I AM」と繰り返し使います。（このI AM=わたしは有る、というのは英語の聖書で神が自分自身を指すときに使われている）つまり彼らは自分自身を、神だと言っているのです！実際に、「天にまします我らの父よ、御名があがめられますように」を、「天にまします我らの父よ**私の名**があがめられますように」と祈るのです。また彼らは「我々は不死、神と同じ存在」と、はっきり言っています。彼らはエデンの園でのサタンの言葉「あなたは、決して死ぬことはない、神のようになる。」を信じ教えているのです。これはまさしくオカルト神学です。

またロバート・シューラーは、特に**ウィロークリク教会の、ビル・ハイベルス、サドルバック教会のリック・ワーレン**と親しく、教会成長ミーティングとして、度々集まっています。特にビル・ハイベルスには高い評価をしていて、「彼のミニストリーは、アメリカのクリスチャン界において最大の功績であり、彼をとて誇りに思う」などと賞賛し、自分と彼のことを、



父子の関係に等しいと言っています。また、ヨハネパウロⅡが選ばれたときにも、彼自身をとっても賞賛しているのです。人や制度を高め、栄誉を与えようとするのは、ヒューマニズム(人道主義)、そしてフリーメイソンの教えです。ところでホワイト夫人は義認をなんとやっているのでしょうか:「人の栄光を塵に伏させる。」それだけです。自分は無(nothing)、イエスがすべて(everything)です。彼らは全く反対です。いつも人間を高い位置に置き、そして自分に注目を集めることを望むのです。バプテスマのヨハネは言いました。「彼は必ず栄え、わたしは衰える。」これは私たちの言葉ともなるべきです。

※サドルバック・バレー・コミュニティー教会(Saddleback Valley Community Church—略して、サドルバック・チャーチ)は、南カルフォルニアのレイク・フォレスト(オレンジ地域にある都市)にある、福音主義的教会である。教会は、リック・ワーレン牧師によって1980年に建てられた(開拓伝道)。今日ではおよそ週に22,000人が参加し、120エーカーの敷地面積がある。そして300を超える慈善事業がある。たとえば、囚人や、社長、中毒者(麻薬、アルコール)、シングルの親、HIV感染者など、様々な人に対して奉仕をしている。最近では、野宿者の4万2000人の人々に「1日3食を40日間」という食料援助を行った。



※アメリカで記録的売り上げ(現在3,000万部以上)を続けている「The Purpose Driven Life」(リック・ワーレン著)が日本で「人生を導く5つの目的—自分らしく生きるための40章」と題して発売され、続けてその姉妹書「祈りの日記—40日の心の旅」や「40日の目的の旅(スモールグループ用テキスト)」が発売されています。また教会での彼の説教も40回シリーズが多くあります。彼がなぜ40という数を好むのでしょうか。40という数字はオカルト者が使う特徴的な数のひとつです。確かに聖書には40という数字が20箇所以上も出てきます。例えばイエスの40日間の荒野での断食、モーセのミデアンでの40年等々…。しかし、彼らはこの40という数字に特別な霊的意味を与えることによって、聖書の教えを無効にし、破壊しようとしている

ことをほとんどの人は知りません。

さてサドルバック教会の、リック・ワーレンの思想はどのようなもののでしょうか。彼の中心にある教えは人々の必要を満たすということです。たとえば人々が食物や衣服、その他何でも必要としているのなら、与えなさいと言っています。もちろんこれは何も悪いことではありません。けれどもこれは宗教でしょうか。彼の言おうとしていることは、聴衆に特別の必要があり、もし私が彼らの必要を満たすならば、私は隣人を助けているのだから栄誉あることをしているのだ、という考えです。けれどもこのような人々を助ける行いは、宗教によって生じる結果であるべきなのです。たとえば教会が、衣食住を必要としている人々をいつも助けられるように配慮していくとしますが、これは慈善団体と呼ぶべきです。それからどうなりますか、人々は衣食住など自分の必要を満たすためにやってきます。神を求めて教会に来るわけではなくなります。教会は神を礼拝する為に来るところです。



ウィロークリークの、ビル・ハイベルスも同じ考えを教えています。たとえば、聴衆中心の(聴衆の必要を満たす)礼拝を、つまり人々の好みの音楽や、演劇等、何でも取り入れ、肯定的、積極的な説教をし、リラックスした友好的な雰囲気などで…など等、続きますが、彼が強調していることはどうでもよいことですし、実際に礼拝に行っているある人は、礼拝中に食べるスナックを持参し、礼拝で催される好きな音楽と演劇を楽しみ、心地よい説教を聞き、教会内のレストランやカフェで食事をし、教会内の店でショッピングをして帰るといふ、エンターテイメントになっています。そこに神に対する崇敬の念はあるのでしょうか。けれどもこれが彼らの提供していることなのです。そこに彼らの中心点はいつも人間です。礼拝の中心になるべきものがイエスから聴衆になってしまっているのです。いつも、いったい聴衆は何が必要なのかと考えるばかりで、イエスは私達に何を望んでおられるのか、などはまったく無視しています。

現在多くのメガチャーチは、支援グループを持っています。それは人々のあらゆる必要にこたえられ

るように備えられていて、例を挙げれば、離婚相談係、エンプティ・ネスト症候群（空っぽの巣症候群—子供達が自立して家を出た後、生きがいを失う抑うつ状態）、自動車修理係、学齢期の子供の家庭教師施設、アルコール、麻薬依存症支援係、経済支援係など、ありとあらゆる細かい分野に及びます。

レイクウッド教会は150もの支援係があるそうです。一見すばらしいことです。そしてお互いに助け合い、隣人を助けること、これは何も間違っていることではありません。けれどもこれがキリスト教になってしまうとおかしいことです。教会員は、集まってくる人々のありとあらゆる必要を満たすためにとっても忙しくなります。そして助けを与える人は、私は人々を助けているのだ、との満足心が彼らの宗教になってしまうのです。そして集まってくる人も、助けてくれる人に依存するようになります。



イエス様と、その福音は、どこに入るのでしょうか。私たちは皆マザーテレサになることができます。外に出てひとりひとり衣服を着せ食事を与えることができます。けれどもこれは宗教でしょうか。宗教による結果として現れてくるかもしれませんが、マタイ6章をもう一度よく読んでみてください。あなたのよい行いは、他の人々が知る必要はないのです。「わたしがしたことを見てください。私は何とすばらしいクリスチャンではありませんか」と思うことは危険です。また物質的必要は、異邦人が切に求めているものです。神様は言われます。「まず神の国と神の義を求めなさい、そうすればすべてのものは添えて与えられるであろう。」「あなたがたのいっさいの必要をキリストイエスにあつて満たしてください。」

もしあなたが良い行いをするによって、栄光を受ける者になるなら大きな問題です。なぜならあなたは神の場所を取ることになるからです。二つの問題が教会内に出てきます。与えた人は与えたということで自己満足し、貰った人は貰ったことで満足します。けれどもあくまでこれはキリスト教ではありません。これはヒューマニズム（人道主義）で、人間が中心であり、神が中心ではないのです。神がいっさいの必要を満たしてください。本当にそうし

てください。

ところで神様は人々を通してそれをなさいますか？もちろんそうされます。私は時々その良いことをしてくれた人々を知らないでいますか？はい。ではその時にだれが栄光と誉れを受けるのでしょうか、神様です。もし私が教会に私の必要を満たしに行くのなら、私はパンと魚のクリスチャンになってしまいます。私が教会に行くのは食物の為ではありません。神の言葉なしには生きられないからです。行いが神の言葉に取って代わって入れられてしまった教会、それは人が神になってしまうのです。人々の必要にこたえる人が栄光を受け、神の場所を盗んでしまうことになるからです。

必要に応じるという基本的な神学は、カトリック神学の行いによる救いからきています。何かをすることによって救われるという考えです。もちろんあなたは人を助けるでしょう。これはあなたの宗教の結果としてあらわれてくるものなのです。なぜならイエスがその精神をあなたの心に入れてくださるからです。

預言の霊は言っています：「キリストに従う者はその善行によって、ほまれを自己に帰すのではなく、彼らに善行を行う恵みと力を与えたおかたに帰さなければならない。よきわざが成し遂げられるのはすべて聖霊によるのであって、聖霊はそれを受ける人間の栄えのためではなくて、その与え主なる神に栄えを帰すために授けられる。キリストの光が魂の中で輝くとき、くちびるは神への賛美と感謝に満たされる。あなたは自分の祈り、自分の義務を果たしたこと、自分の博愛、自分の自己犠牲などは考えもしなければ、話題にもしない。イエスがますます大きくなり自己は隠され、キリストがすべてのすべてとなるのである。」（祝福の山99）

リック・ワーレンの言葉です：「私たちは音楽によって何千という人々を魅了しています。すべてのジャンルの音楽、ロックでも、ポップスでも、ジャズでも、オーケストラでも、何でも揃えて人々の必要、好みを満たすために音楽の選択は非常に重要な問題です。み言葉からははじめません。礼拝の場所に集まっている人々が自分は特別の存在なのだと思います。」「

彼は音楽の選択が、非常に重要な問題だと言っていますが、戦争中に秘密の集会をした人々のことを考えてください。集まった人々はできるだけ静かにしなければなりません。もちろん賛美歌を歌うなどということは、考えもしなかったことでしょう。彼らにとって賛美をすることは、非常に重要な問題だったのでしょうか。もちろん違います。共に集まり神様に礼拝を捧げること、それが目的でしたから。ホワイト夫人は、間違った動機ならば何もしないほうが良いと言っています。賛美は神にするのです。人の好みに応じたり、満足させたりするために

はありません。人々が次のように言うのを聞いたことがありませんか。青年達を教会に集めるために、または去らせないために、彼らの好む音楽を用いるべきだと。

真理が人を教会に集めるのです！もし彼らがある種の音楽がそんなに好きならば、彼の家で地下室で好きなように聞けばいいのです。だれも文句はいいません。なぜ教会が彼らの満足するものを用意しなければならないのでしょうか。もし教会に神様を礼拝するために来るのではなく、音楽を楽しむにやるのなら間違った動機で来ているのです。それなら自分の地下室で好きな音楽を聴いていたほうがよほどよいのです。

リック・ワーレンの言葉を続けます：「ロック、ポップス、ジャズ、…何の音楽でも問題はあません。神様がそれらの音楽をくださったのです。ドラム、シンバル、トランペット、早くても、遅くても、音量が大きくても聖書的な基準などありません…。」これは音楽クラブとでも呼ぶべきで教会ではありません。神様は神聖な場所でドラムを使うことを厳しく禁じておられます。ロック音楽などは、脳にとりかえしのつかないダメージを与え、麻薬と密接な関係にあり、またある種のリズムは、マインドコントロールのために使われます。

また多くのプロテスタント教会で行われているゴスペル音楽にあわせ、身振り手振りダンスのような体の動きは、エキュメニカルムーブメントに大きな役割をはたすので、カトリック教会が率先して薦めていることなのです。ホワイト夫人は言われました：

「主は私に、恩恵期間終了直前に起こることを示された。あらゆる異様なことが実演されるであろう。ドラム、ダンス音楽と共に、叫び声があるだろう。理性の持ち主は感覚で正しい決定をすることができないほど混乱してしまうであろう。それが聖霊の働きであると呼ばれるであろう。聖霊は、決してこのような方法、騒々しさではご自身を現されない。これは純潔で、真実で、人を高め、清める現代の真理を効果のないものにするため、自らの巧妙な方法を隠すためサタンが考案したものである。」(2SM 37)

もしあなたが神中心の宗教の代わりに、音楽や、演劇や、その他すべてのことにおいて、人間中心の宗教になるなら汎神論です。それは自己を神の位置に置くようになるからです。これは今私たちの教会にどんどん入り込んできています。証の書で預言された背教のオメガです。

現在の伝道方法は、人の必要を満足させるものになり、人々に近づく方法がただ人々の必要にこたえることになってしまいました。彼らの心が変わらなければならないのです。私たちには彼らの教会と違って心を全く変えてしまう尊いメッセージがあ

ります。三天使の使命があるのです。そして人々を、イエス・キリストによって救いを得る関係に導くのです。

第一のメッセージは、神を恐れ神に栄光を帰せよ神の裁きの時がきた…。—私は創造主なる神を知る、そしてそこに神の印また安息日のメッセージがあります。私の救い主である神を知り、彼の裁きの基準を知ったとき(戒め) イエスの足元にただひれふすのです。第一のメッセージは、福音のすべてです。あなたは神の形にかたどって創られ、神によってあがなわれ、そして彼のイメージを、またあなたの中に回復してくださる、それはあなたが神になるのではありません。神の栄光を反映する者になるのです。

第二のメッセージはバビロンは倒れた…。—彼らは私たちの裁きのメッセージを受け入れません。彼らは神の権威を認めません。そして安息日を拒否します。もしあなたが神の権威を拒否するのなら、あなたはだれにドアを開くのですか？サタンにドアを開くのです。そして神の座に人間を置くようになるのです。ヒューマニズム(人道主義)です。これは一見、見た目には自由、平等、博愛と、とても素晴らしいことをしているようですが、大きな惑わしです。

第三のメッセージは獣の刻印を受けないようにですが、これは信仰による義そのものです。あなたの義はどこから来ますか。イエスから来ます。では義とはどういうことでしょうか。それは正しいことをするというので、戒めに一致した生活をするということです。戒めはあなたの心の中にあります。「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」どのようにこの世に立ち向かっていくのでしょうか。わたしはこの世が何と言おうとも私を創造された神の権威を信じます。神の権威は安息日にあらわされています。そして私の内にある義は私のものではありません。イエスのものであり、誉れと栄光はすべて神のものであります。私は戒めを守ります。それはしなければならないというものではなく、私がそうしたいからです。

黙示録の預言にあるとおり、全世界が獣を拝むために一致しようとしています。そのためにサタンは秘密結社を用い、その傘下にある政治家や経済界、国連、スポーツ界、音楽界、TV、ニュース、新聞、雑誌などのメディア、映画やその他の娯楽、そして様々の宗派、宗教を用いて実現しようとしています。現在キリスト教界において、すばらしいと評価され実践されている伝道方法、たとえば、メガチャーチの顧客中心、アルファコース、セルグループ又はスモールグループ法(小グループが悪いというのではなく、この方法を作り広めた人々の意図、目的は共産主義のそれと同じで、姿、形を変えて教会に取り入れられた)などは、教会合同、そして新世界統一

を実現するために作られ、イエスを神の座から引き摺り下ろし、人間を代わりに神の座につかせようと巧妙に考え出された方法であるのです。教会のメンバーを増やそうと必死に学んでいる方法が、このような目的を持っていたら、それでも皆さんは更に学び続け、実践しようとお思いになりますか。

現代のプロテスタント界のリーダー的存在、又メガチャーチの親元、ロバート・シューラーについて少し理解していただけたと思いますが、彼は、1987年、すでに「プロテスタントもローマに帰る時がきた、どのように帰るのか法王に問うてみよう」と宣言し、1990年、彼の教会、南ロサンゼルスにある、クリスタル大聖堂を建設する前に、祝福とアドバイスを法王にもらうために、図面を持ってわざわざローマに行っているのです。また、彼の属しているフリーメイソンの最高位の人々の神はルシファーであり、イエス様を嫌悪し、ルシファーの言葉をそのまま信じて彼らも神であるというのです。彼から学び、その思想を受け継いでいるメガチャーチの牧師たち（特にビル・ハイベルス、チャー・ヨンギは、ロバート・シューラーInstituteでは指導者の側）の教えをどうして学ぶことができるのでしょうか。「ふたりの者がもし約束しなかったら一緒に歩くだろうか」（アモス 3:3）。エゼキエル書 28：1-9をどうぞお読みください。この聖句の預言は彼らによっても成就しているのです。

説教者は、彼らの礼拝形式を「Strange Fire」と言っています。日本語で「異火」と訳されているので、ナダブとアビウの事とすぐに結びつくことと思います。彼らは神に使うように命じられた神聖な火を使わずに、「異火」をたった一回用いたことで、全会衆の前で滅ぼされてしまったのです。この出来事は現代の私たちにも警告しているのです：「神は、民らが崇敬と畏怖をもって神に近づき、しかも神の定められた方法に従わなければならないことを教えようとなさった。神は、なまはんかな従順をお受けになることはできない。厳粛な礼拝のときにあたって、ほとんどすべてのことが、神の指示どおりに行われるというだけでは不十分であった。戒めから離れ、世俗のものと神聖なものを区別しないものに、神はのろいを宣言しておられる。」（あけぼの上 426）

「わたしは、主が、わなを発見する機会を世にお与えになったのを見た。クリスチャンにとって、ほかに何の証拠が無くても、この一つの証拠だけで、十分である。それはすなわちそこには尊いものと汚れたものとの区別が全くないということである。」（初文 427-428）

おわりに一現在アメリカでは、本屋のみならず、普通のマーケットでも書籍売り場が設けられているところでは、どこでもメガチャーチの牧師の本が並んでいます。それだけアメリカのクリスチャン達のお手本書になってしまったということでしょう

か。けれどもこのムーブメントの背後には隠されている組織があり、目的があることを知っていただけたと思います。余談になりますが、ロバート・シューラーの口から盛んに出る self esteem(自尊心、うぬぼれ)という言葉は、他の形でも広がりつつあることに気づきます。アメリカのすべての年代の国民的な書物になっている心のチキンスープという本のシリーズがあるのですが、その著者も self esteem(自尊心、うぬぼれ)を培う方法を説き、各地で公演をおこなっています。そしてありとあらゆる所でこの本を目にし、話題とされているのは偶然なのでしょうか。教育システムの中にも、この self esteem(自尊心、うぬぼれ)を子供たちに教え込むプログラムが多く的小学校で導入されるようになり、その方法がニューエイジ、オカルト的なので、危機感を抱いている人々もいるのです。

Dr.ファイトは特にSDAの人々の集会のときには「皆さん、どうぞ目覚めてください、私達は神様から与えられ、世に伝える特別なメッセージ、三天使の使命があるではありませんか」と懇願するように訴えるのです。私達はセブンスデー・アドベンチスト教会に属しているというだけでは、何の誇るべきものはありませんが、この特別なメッセージを神様から与えられ、滅び行く世に伝えるように召されている民であるから特別なのです。最近では伝道の方法論ばかりが強調されるようになり、それに時間やお金を費やせば費やすほど、教会が逆走しているように思えるのは私達だけではないはずで、私達は伝道は方法ではなく（時には役立つと思いますが）メッセージであり、この尊いメッセージが人々を教会に集める力があるのだと確信しています。

お知らせ

サンライズ・ミニストリーのホームページアドレスとEメールアドレスが新しくなりました。

HP www.srministry.com

Eメール contact@srministry.com

尚、ホームページで説教集をダウンロードして聞くことができます。

説教集のアップデート情報をメールで通知して欲しい方は“オンライン説教集のアップデート情報希望”と書いてメール連絡してください。



アメリカには、あらゆる不思議なしるしと奇跡と癒しが行われている非常に過激な聖霊-カリスマ運動とメガチャーチの現象が急増している。私はその光景を DVD で見て驚きを禁じ得ない。今回は、カリスマ聖霊運動と比べたら比較的穏やかだが心霊術-唯心論の運動の一つであるメガチャーチについて Dr.ファイトの公演からその真相を詳細に知ることができた。

そのメガチャーチの中でも最も影響力のある教会の一つ、ウィロークリーク・コミュニティ教会が今年の秋に東京で特別集会を計画している。その宣伝をアドベンチスト・ライフに見て驚いた。しかもこの「グローバル・リーダーシップサミット」の主催者は我がセブンスデー・アドベンチストなのである。なぜ驚いたのか？「神の言葉に照らしてみるならば、これらの運動の本質を見定めることはむずかしいことではない」。(大下 191)

読者がコンピュータを扱うことができるなら、「You Tube」で「Willow Creek Church Worship」や、「Saddleback Church」で検索すれば、彼らの礼拝の様子を見ることができる。

ウィロークリーク・コミュニティ教会は、ウィロークリーク・アソシエーション（連合、組合）を結成し、現在2,200以上の教会が参加しているそうだ。その勢力はどんどん伸びている。北アメリカ SDA カンファレンスの3つが加わっている。そのカンファレンスとは、アラスカ・カンファレンス、ダコタ・カンファレンス、大ニューヨーク・カンファレンスである。

オレゴンカンファレンス
キャンプミーティングの安息日↓



少なくとも 56 の SDA 教会がそのセミナーに参加し、SDA の教会を破壊しつつあるようだ。これらの教会は、セブンスデー・アドベンチストという名前を称えないが、カンファレンスは SDA 教会として認めている。そして少なくとも 3 つの SDA 教会が、教会ごと SDA を出て日曜礼拝に移ったようだ。

オレゴンのサニーサイド、メリーランドのダマスкас、コロラドのアドベンチスト・フェローシップである。セブンスデー・アドベンチストの教えは希薄になり、礼拝はにぎやかになり敬虔さが低下し、音楽、食事、服装等々の標準がくずされ、SDA のアイデンティティー、地境(Old Landmarks)が取り除かれつつあるという。

アドベンチスト・ライフには、次々とその広告と記事が出ている。アドベンチスト・ライフ 2007 年 11 月号に次のような広告があった。

グローバル・リーダーシップサミット 来秋開催



ウィロークリーク・コミュニティ教会は毎年8月に、教会の指導者の方々のために、著名な指導者の方々から学ぶリーダーシップサミットを開催しています。現在、グローバル・リーダーシップサミットという名称でこのサミットは全世界30カ国で開催され、7万人以上の方々が参加する大きな大会となりました。日本でもこのサミットを来秋東京で開催しようと準備を進めています。教会は地域社会の希望でなければなりません。この理想を実現するための鍵は教会の指導者たちであると言っても過言ではないでしょう。指導の賜物を神様が望まれるようにどのように最大限に生かしていくのか、この課題に助けを与えようとしているのがグローバル・リーダーシップサミットです。

メガチャーチの問題点：

1. 個人の必要が優先

確かにイエスの伝道の成功は、まず人の必要を満たすことであった。だからと言って、イエスは、その人が酒、たばこを必要としているという場合、それを与えることはなさらなかった。ロック音楽を欲しがらる青年にまず礼拝でロックやラップを楽しませるといことはなさらなかった。ビールが欲しいといえばビールを出したり、教会のロビーにバーを設営する。メガチャーチ法は、会衆が娯楽

を必要とすればドラマ、演劇を提供して楽しませるのである。自尊心(プライド)の喪失から救い、空しさ、孤独からの解放、自己満足、興奮の手段を与え、自分の心の欲望を満たす方法を提供する。「美しい女性がいて欲しいといえば教会の女性会員を着飾らせて並べ、若者の欲求に教会が即応して答えることが伝道であると勘違いしている」。

2. 教会事業の方法—マーケティング

従ってある地域に伝道を開始する時に、まずその地域社会の必要を調べる。子供たちの種々の遊び場が必要なら、それを提供する。サドルバック教会のように、広い土地に、子供たちが飽きないように動物園、遊び場も設備する。大人には玉突き遊びも設備する。

3. 歪められた福音

罪とか、悔い改めなどの不快語は言わない。神の律法は掲げない。神の義と憐れみを分離させ、罪からの分離を説かない。心の根本的变化もなしに救われる。この世の繁栄、祝福、成功を目標とし、そこには自己犠牲、自己否定の強調はない。メッセージは神からの「悔い改めよ、そして救われよ」ではなく、人の自尊心を傷つけないように耳触りのよいことを説いて喜ばせる。善と悪を区別しない。

4. 教理の軽視

教理や預言の研究はない。警告はない。愛と一致、平和と安全のために集う。真理よりも賛美と踊りのエンタテイメント、セレブレーション礼拝で楽しませる。感傷的な思いに陶醉させる。自分の必要が満たされ幸福感にひたる。

5. 小異を捨てて大同に付く

各々の宗教の相違点よりも共通点に重きをおいて多様性の一致を図ることが優先される。そしてねらうところはエキュメニカルである。

我が教会は沈滞していき、他教派の盛況ぶりを見てその伝道を真似ることに一生懸命であった。今までの教会に奨励されてきたプログラムを振り返ってみると「教会成長」あり、「小グループ」あり、「セレブレーション」あり、そして「メガチャーチ」ありであった。

「使命」が希薄になり、群れが必要とする現代の真理で養わずに、様々な伝道法によって信者を増

やそうとするが、羊たちはやせ衰え、SDA のアイデンティティーの喪失に心ある先輩たちは嘆く。アドベンチスト・ライフ(生活様式)も落ちてくる。1960年代の世界総会総理、ピアソン長老は士師記2:10を引用して深く嘆かれた:「そしてその時代の者もまたことごとくその先祖たちのもとにあつめられた。その後ほかの時代が起ったが、これは主を知らず、また主がイスラエルのために行われたわざをも知らなかった」。

2 SM18、19 他教派を真似る

「伝道の働きに変化が起こっている。他教派を真似ようと強く望むが、単純さと謙遜さはめったに見られない。若い牧師たちは独創的であることを求め、働きに新しいアイデアを持ち込もうとする。あるものはリバイバル集会を開き、その手段によって教会に多くの数を集めようとする。しかし、興奮が終わると改心者はどこにいるだろうか? 罪の悔い改めと告白はみられない。罪人は過去の罪と違反の生活を考慮することなしに、キリストを信じ受け入れるように訴えられる。心は碎かれない。魂の悔恨はない。いわゆる改心したと言われている者たちは、岩なるキリストに落ちていない。

旧約、新約聖書は、この働きがなされるべき唯一の方法を示している。『悔い改めよ、悔い改めよ、悔い改めよ』が荒野のバプテスマのヨハネによって叫ばれたメッセージであった。人々に与えられたキリストのメッセージは『あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう』であった。(ルカ 13:5)。使徒たちは、悔い改めるべきことをどこでも説教するように命令された。

主は今日ご自分の僕らに古い福音の教理を、すなわち罪の悲しみ、悔い改めと告白を説くように望んでおられる。我々は、イスラエルにオールドファッション(流行遅れ)の習慣、オールドファッションの父親、母親を必要とする。罪人のためには彼らが、神の律法の違反者であることを認めるまで忍耐強く、熱心に、賢明に働きかけなければならない。そして彼らが、神に対しては悔い改め、主イエスに対しては信仰を行使できるようにしなければならない。

一般諸教会から学ぶところは、勿論あるであろう。しかし、現状はちょうど、昔イスラエル人がシッテムの平野でミデアンの女たちを歓迎して神の怒りをこうむったように、妥協し、SDA の特殊性を失ってしまったというものである。

初代文集 443 諸教会はますます墮落

「第二天使が諸教会の墮落を宣言して以来、諸教会は、ますます墮落していったことを、わたしは見た。彼らはキリストの弟子であると称している。しかし、彼らを世俗から区別することはできない。牧師たちは、神の言葉から聖句を引用はするが、人の耳に聞きよいことを説教する。肉の心は、それに対してな

んの反対もない。肉の心が憎むものは、真理の霊と力とキリストの救いだけである。一般牧師の説教には、サタンを怒らせ、罪人を震えさせるものはない。また、切迫した恐るべき審判の現実を人々の良心に訴えるものはない。悪人たちは一般に、真の敬神の伴わない信心深い様子を喜び、このような宗教を支持するのである」。

ウィロークリーク教会の礼拝光景



アモス 5:23
あなたがたの歌の騒がしい音を
わたしの前から断て。
あなたがたの琴の音は、
わたしはこれを聞かない。

2 SM36

「あなたが描写しているようなことがインディアナで起こっているが、主はわたしに、恩恵期間終了直前に起こることを示された。あらゆる異様なことが実演されるであろう。ドラム、ダンス音楽とともに、叫び声があるであろう。理性の持ち主の感覚で正しい決定をすることができないほど混乱してしまうであろう。聖霊は、決してこのような方法、騒々しさではご自身を現されない。これは純潔で、真実で、人を高め、清める現代の真理を効果のないものにするため、自らの巧妙な方法を隠すためサタンが考案したものである。去った1月に楽器を伴ってなされたような礼拝はしない方がいい。そのようなことが、私たちのキャンプ・ミーティングに持ち込まれるであろうということが示された。この時代の真理は魂を悔い改めさせるのに、このような方法は一切必要としない。騒乱は感覚に衝撃を与え、もし正しく使われたら祝福となるはずの音楽を歪めてしまう。サタンの使いの力が浮かれ騒ぎと結ばれる。これが聖霊の働きと呼ばれている」。

※ 近年、ウィロークリーク教会さえも、自分たちの方法を分析して、集まる人々がキリストの十字架のもとに来ることがないので反省会を持ったという。

神の靈感の言葉を読んで読者自ら判断してほしい。今流行のメガチャーチ的リバイバルは本物か、それとも別な霊なのだろうか。

**現代のリバイバルは本物か？大争闘下
p187-192 より**

神の言葉が忠実に説かれたところではどこでも、それが神から出たものであることを証明する結果が伴った。神の霊が、神のしもべたちのメッセージに伴い、その言葉には力があつた。罪人は、良心が目ざめるのを感じた。「すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。」その光が、彼らの心の密室を照らし、隠された暗黒のことをあらわした。彼らの心は、深い感動を受けた。彼らは、罪と義と、来たるべきさばきとについて、目を開かれた。彼らは、主の義を認め、自分たちの罪と汚れのまま、心をさぐられるかたの前に出ることを恐れた。彼らは、苦悶の声をあげて、「だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか」と叫んだ。人間の罪のために無限の犠牲が払われたカルバリーの十字架が示されたとき、彼らは、自分たちの罪を贖い得るものは、キリストの功績以外にないことを悟った。ただこれだけが、人間を神に和解させることができるのであつた。信仰をもって謙遜に、彼らは世の罪を取り除く神の小羊を受け入れた。イエスの血によって、彼らは、「今までに犯した罪のゆるし」を得た。

この人々は、悔い改めにふさわしい実を結んだ。彼らは信じてバプテスマを受け、キリスト・イエスにあつて新しく造られた者として、新しい生活を始めた。彼らは以前の欲に従うことなく、神のみ子を信じる信仰によって、み足の跡に従い、主の品性を反映し、主が清くあられるように自分たちも清くならうとした。彼らは、かつて憎んだものを愛し、愛したものを憎むようになった。高慢で自負心の強い者は、柔和で謙遜になった。虚栄心があつておうへいな者は、まじめでひかえ目になった。低俗な者は敬虔に、酒のみは謹直に、そして放蕩者は純潔になった。世俗のむなしい流行は、放棄された。キリスト者は、「髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを」求めた。「これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである」(I ペテロ 3 : 3,4)。

リバイバル(信仰復興)は、深い内省と謙遜をもたらした。罪人に対しては厳粛熱心に訴え、キリストの血による贖いに対してはあわれみを求めるのが、リバイバルの特徴であつた。男も女も、魂の救いのために、神に祈り神と格闘した。こうしたリバイバルの結果、克己と犠牲をもいとわず、むしろキリストのためにそしりと試練を受けるに足る者とされたことを喜ぶ者たちが現われた。人々は、イエスの名を告白する者たちの生活が変化したことを認めた。社会は、彼らの感化によって益を受けた。彼らは、キリストとともに集め、永遠の生命を刈り取るために霊にまいた。……

彼らについては、「悲しんで悔い改めるに至った」と言うことができる。「神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。見よ、神のみこころに添うたその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである」(II コリント 7:9-11)。

これは、神の霊の働きの結果である。改革が行なわれなければならないなら、真の悔い改めとは言えない。もし罪人が、質物を返し、奪った物をもどし、罪を告白し、神と同胞を愛するならば、彼が神と和らいたことは確かである。昔は、宗教的覚醒が起きたときには、それに伴って、このような結果が生じた。そうした実から判断して、それらは、人々の救いと人類の向上のために神の祝福を受けたものであることが明らかになった。

ところが、現代のリバイバルの多くは、初期の時代において神のしもべたちの働きに伴った神の恵みのあらわれと、著しく異なっている。たしかに、広く人々の関心をあおり、多くの者が自分たちは改心したと言ひ、教会に多数の信者が加わっている。し

かし、それに伴って真の霊的生命が向上したということを保証するような結果は、あらわれていない。一時燃え立った火は、すぐに消えて、暗黒は前よりもいっそう深刻になる。

一般のリバイバルは、ともすれば、想像に訴え、感情を刺激し、新奇なことに対する愛好心を満足させるようなやりかたで行なわれている。こうして得た改心者は、聖書の真理を聞くことを望まず、預言者や使徒たちのあかしに興味を示さない。集会も何か感情をそそるようなものが無いかぎり、彼らをひきつけることができない。冷静な理性に訴えるメッセージは、なんの反応も起こさない。彼らの永遠の幸福に直接関係のある、神の言葉の明白な警告も、注意を払われないのである。

真に改心したすべての魂にとって、神と永遠の事物とに対する関係は、人生の大問題である。しかし今日、一般の教会のどこに、神への献身の精神があるであろうか。改心者たちは、誇りと世俗を愛する心を捨てていない。彼らが、自己を否定し、十字架を取り上げて、柔和で謙遜なイエスに従っていこうとしないのは、改心前と全く同様である。宗教は、多くの者が、その名をとらえながらその原則に無知であるために、無神論者や懐疑論者の物笑いとなってきた。敬虔さの持つ力は、多くの教会からほとんど姿を消している。行楽・演劇・バザー、りっぱな建物、信徒の華美な装いなどが、神の思いを遠ざけてしまっている。土地、財産、世俗の職業が心を奪い、永遠のことに気を配るものはほとんどいない……。

過去半世紀の間に起こったリバイバルの多くには、将来大規模にあらわれるのと同じ勢力が、多少とも働いていた。そこには感情の興奮と、真理と虚偽の混合が見られ、それは人を欺くのに好適なのである。しかし、だれも欺かれる必要はない。神の言葉に照らしてみるならば、これらの運動の本質を見定めることは、むずかしいことではない。人々が聖書の証言をおろそかにし、克己と世俗の放棄とを要求する明快で人の心を試す真理から顔をそむけるならば、神の祝福を受けることができないのは確かである。そして、「その実によって彼らを見わけるであろう」という、キリストご自身がお与えになった規準によって、これらの運動は神の霊の働きではないことが明らかなのである（マタイ7:16）。

無力さの原因

神は、み言葉の真理の中で、ご自身についての啓示を人間にお与えになった。そして、真理を受け入れるすべての者にとって、真理は、サタンの欺瞞から彼らを守るたてである。今日、宗教界に広く行きわたっている害悪に戸を開いたものは、これらの真理の軽視である。神の律法の性質と重要性が、ほとんど見失われている。神の律法の性格、永続性、義務についての誤った観念が、改心と清めについての

誤りをひき起こし、その結果教会内の敬虔さの標準を低下させるに至っている。ここに、今日のリバイバルにおいて神の霊と力が欠けている理由を見いだすのである。

さまざまな教派の信仰深い人々が、この事実を認めて嘆いている。エドワード・A・パーク教授は、現代の宗教的危機を指摘して、次のように言っている。「危険の原因の一つは、説教壇から神の律法を強く主張しないことにある。かつては説教壇は、良心の声が響くところであった。……われわれの最も著名な説教者たちは、主の模範にならって、律法の戒めと警告とを強調することによって、彼らの説教を驚くほど威厳のあるものにした。彼らは、律法は神の完全の写しであって、律法を愛さない者は福音を愛していないという、二大真理をくり返した。なぜなら律法は、福音と同様に、神の真の品性を反映する鏡だからである。この危険は、さらに次へと発展して、罪の害悪とその範囲、その恐ろしさなどを過小評価させるに至る。戒めが義であればあるほど、それに服従しないことははなはだしい悪なのである……。

上述の危険と密接に関係しているのが、神の義を軽視する危険である。現代の説教の傾向は、神の義を神の慈愛から引き離して、慈愛を原則として高めるよりむしろ一つの感情に低下させている。新たな神学は、神が結合されたものを分裂させた。神の律法は善か悪か。善である。それならば正義は善である。なぜなら、正義は律法を実施するものだからである。人間は、神の律法と正義を軽視し、人間の不服従の程度と恐ろしさを軽視する習慣から、罪の贖いのために備えられた恵みを過小評価する習慣に陥りやすい。」こうして人々は、福音の価値と重要性を忘れ、そしてまもなく、実質的に聖書そのものを放棄するようになる。

偽リバイバル現象は本物が近いことの前ぶれ

「しかし、信仰と敬虔さが一般に衰微したとはいっても、これらの教会の中に、キリストの真の弟子たちがいるのである。地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。

そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。

大いなる宗教的関心と思われるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする。」(大争闘下 190,191)

「サタンはある人々を心霊術で欺く。彼はまた、光の天使を装って現れ、偽りの改革によって、彼の勢力を地上に拡大する。教会は、意気盛んになって、神が彼らのために驚くべき働きをしておられると考えるのであるが、それは、別の霊の働きなのである。興奮はさめて、世界も教会も、以前よりはさらに悪化した状態に陥るのである。

わたしは、神が、名目的再臨信徒たちと、墮落した教会の中に心の正しい人々を持っておられるのを見た。そして、牧師や信者たちが、災害がくだされる前に、これらの教会から呼び出されて、喜んで真理を受け入れることをわたしは見た。サタンは、この事を知っている。第三天使の大いなる叫びがあがる前に、サタンは、これらの宗教団体に、興奮を起こさせ、真理を拒んだ人々に、神が彼らと共におられると思わせるのである。サタンは、心の正しい人々を欺いて、神がなお教会のために働いておられると彼らに思わせたいと願っている。しかし、光が輝き出る。そして、心の正しい人はみな、墮落した諸教会を去り、残りの民に加わるのである」。初代文集 425,426

「わたしは、この欺瞞(心霊術)が、急速に広がるの

を見た。電光のような速度で走る列車が、わたしに示された。天使は、わたしに、注意深く見るようにと命じた。わたしは、列車をみつめた。全世界がそれに乗っているように見えた。それから、天使は、乗客の全員が仰ぎ尊んでいる立派で堂々とした車掌をわたしに示した。わたしは、よくわからなくて、それが一体だれなのかを、一緒にいた天使にたずねた。天使は答えて言った。『それは、サタンである。彼は、光の天使を装っている車掌である。彼は全世界を捕虜にしてしまった。彼らは、強力な欺瞞に惑わされ、偽りを信じて滅びに陥る。彼の次に高い地位にある彼の手下は、機関士であって、その他にも、彼の手下たちが、必要に応じていろいろの役についている。そして、彼らはみな電光の速度で、滅びに向かっている。』 同 426

上記の霊感の言葉をまとめてみよう：

1. 使徒時代以来かつて見られなかったような敬虔のリバイバル、第三天使の大いなる叫びがなされる前に起こる現象である。これは本物の近いことのあるしである。
2. 教会は、意気盛んになって、神が彼らのために驚くべき働きをしておられると人々は思う。非常な興奮が起こる。
3. その勢力は非常な速さで拡大する。電光のような速度で走る列車の車掌はサタンである。
4. これは心霊術、あるいは唯心論の欺瞞である。

メガチャーチの代表作、ベストセラー：

The Purpose Driven Life (リック・ワーレン著) 「人生を導く5つの目的」のわな

スティーヴ&千里 井上



数年前、ニューヨークタイムズのランキングで連続167週第一位という記録的な売り上げを持続していた「The Purpose Driven Life」という題名の本がある。著者は南ロサンゼルスにある福音派サドルバック教会のリック・ワーレンである。サドルバック教会は20年以上前は、メンバーが数十人の家庭集会所のような教会であった。ある日、リック・ワーレンは今日メガチャーチの元祖といわれているロバート・シューラーを訪ねるが、その面会によって人生が全く変わってしまうような強い影響を受け(彼の妻は一目でシューラーの魅力に虜になったと表現している)彼の影響の下、世俗的なマーケティングの手法により今日のメガチャーチと言わ

れるまでの教会に発展した。

さて、このメガチャーチのキーパーソンと言われているロバート・シューラーは現在プロテスタント界のリーダーとして有名だが、彼に最も強い影響を与えたのが親しくしていた友人牧師のノーマン・ビンセント・ピールであった。ピールは一時牧師職を続ける事をほとんど諦めていたが、その気落ちしていたある日、突然、死んだ母親が目の前に現れ「そんなに投げやりになるのではない、人々はあなたを必要としている」と励ました。そして教会での説教中にも今度は死んだ父親がコワイヤーに混じって歌っているのを見たそうである。この出来事以来1993年に死去するまでプロテスタントの牧

師として活躍している。

このピールからロバート・シューラーのニューエイジ思想(*下記参照)、また彼の自尊心の福音(俗称)は受け継がれたのである。またリック・ワーレンもロバート・シューラーの思想を学んだ。そしてもう一人、とても親しい関係にある人物はロバート・シューラー自身が息子同様と呼んでいるワイロークリーク教会のビル・ハイベルズである。多くの牧師が彼の神学訓練校で学んでいるが、ビル・ハイベルズ、リック・ワーレンには特に高い評価をしており彼の神学訓練校の教師も務めている。また、教会成長カンファレンスという名目でよく彼らと集まりをもっている。

さて、これほどにヒットしたリック・ワーレンの本は何を語っているのであろうか。興味をもって多くの方がすでにお読みになっているかもしれないが、この本が読者を導こうとしているゴールに気づいたであろうか。それらはある部分は明白に書かれており、又ある部分は隠されていて文中には現れていないが、識別力のある読者ならばそのゴールに気づくであろう。

はじめの6章は神は私達の創造主であり、私達が交わりを持つお方であることを確認しているが7章以降になると、神に信頼することから人間を頼りにする思想へと移行してしまう。下記が簡単な本全体の結論である。

教会は神に代わるものである。神は我々に時々アドバイスをしてくれるだろう。しかし人間によって組織され運営されている教会はやがて神の位置につくことになる。教会はこの世の神の声である。—これは直接的には文中に述べられていない。けれども読者が注意深く、識別力をもって読み進んでいく時にとっても明白になってくる。

すべての種類の音楽は、たとえそれがどんなに野蛮で品のないものであっても(ロックでも何でも)内容(歌詞)がクリスチャン的であるなら受け入れること。

神は私達が組織された教会に属することを命じている。

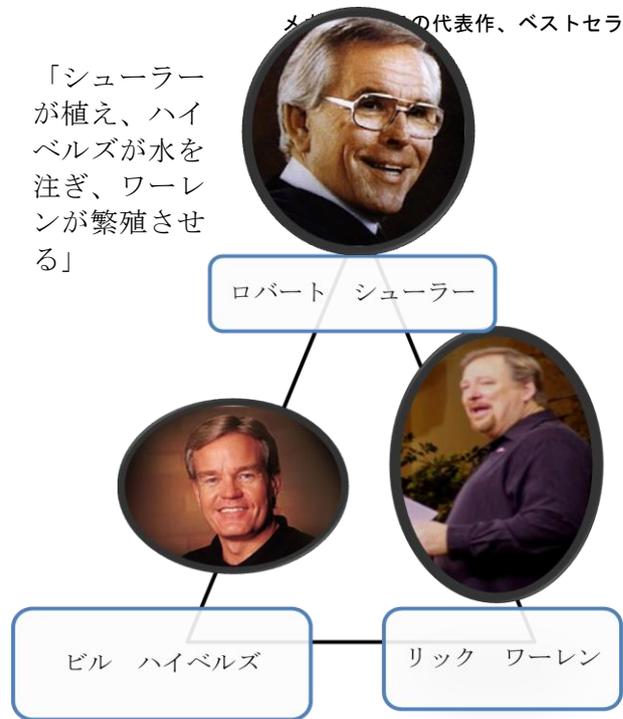
マントラ(瞑想のときに何かの言葉—大抵意味のない言葉を反復するお経のようなもの)を奨励している。—これは自己催眠の方法で聖書で禁じられている。

神はあなたが教会に感情移入するように願っている。

教会の家族は自分自身の家族よりももっと大切である。

もしあなたが教会に属していなければ神の呪いの下にある。

「シューラーが植え、ハイベルズが水を注ぎ、ワーレンが繁殖させる」



人々は組織された教会のメンバーでなければ、成長、成熟したクリスチャンになることはできない。

あなたが自分の信条、教義をもっていたとしても、教会の教えに一致しない時、それによって教会内の一致が保たれなくなるのなら、個人の信条は捨てなければならない。教会員の中の違いよりも共通性に焦点をあてることや、教会の一致を守ることが教会員の使命だと教えているがこれは明らかにエキュメニズム思想である。

自己の考えを捨てても教会の指導者には従わなければならない。

一見ローマ法王の発言のようであるが、驚くことにアメリカの多くの SDA 牧師がなんとインターネット (www.pastors.com)を通じて彼の説教テープを購入し、教会員にこの本を読むように薦めているというのである。

リック・ワーレンの(またはメガチャーチ牧師全般的に)第一の問題は、彼らの教えには聖書の真理の土台が全くないということである。キリスト教を社交の宗教に変え、重荷のない、表面的な、弱く、軽々しい感傷的な愛が教えられている。教会員たちは牧師に多大な崇拜心を抱き、語られる一つ一つの言葉を聞き逃さず、疑いもなく吸収している。それは罪を指摘しない“気持ちのよい”耳に心地よい教えである。しかし聖書の土台が全くないので艱難、迫害に弱く、本当のクリスチャン品性は全く築けない。

私達の教会は100年以上も前からこのような教会の出現が特に終末に顕著になることを警告されてこなかったであろうか：

「今日、**心霊術**はその様式を変え、今までのいかがわしい点を隠して、キリスト教の仮面を装いつ

つあることは事実である。... 心霊術は、今日において、従来の様式よりもはるかに巧妙になっているため、かえって人々の心をつらえやすく、それだけに危険性が増したといえる。それは、これまでキリストと聖書を否認してきたが、今はこの両者を受け入れると公言している。彼らによって、聖書は、生まれかわっていない心を喜ばすように解釈され、他方、厳粛で重要な聖書の真理が無視されている。

愛は神の第一の御性質として繰り返し説明されてはいるが、善と悪をほとんど区別しない弱々しい感傷主義に陥っている。神の義、罪に対する神の譴責、神聖な律法の諸要求などはすべて無視されている。人々は十戒は死文であると考えるように教えられる。人の耳を喜ばす魅惑的な作り話が彼らの感情をつらえ、人々に信仰の基礎である聖書を否認させている。こうして、以前と変わりなくキリストは拒否されているのであるが、サタンは人々を盲目にしてその惑わしが見分けられないようにしているのである。

心霊術の欺瞞的な力と、その影響を受けることの危険性を正しく認めている者はほとんどいない。」各時代の争闘 313。

「唯心論(Spiritualism)では、人間は神的性格をもった墮落しない存在で、『自分の心をさばくものは自分の心である。』『人は真の知識をもつとき一切の律法に超越する。』『罪を犯しても罪とはならない』と主張される。

なぜなら『すべて有るものは正しい』からであり、また『神は罪を定めぬ』からであるというのである。どんな下等な人間も天国に行くと高い地位を与えられると説かれている。こうして、その教えはすべての人に向かって『どんなことをしてもかまわない。あなたがたの好きなように暮らさなさい。天国はあなたがたの家郷だ』と宣言する。多くの人々は、こうして、欲望こそ最高の律法であり、放逸こそ自由であり、人は自分自身にだけ責任があると信じるようになる」。教育 269

ところでリック・ワーレンのこの本がこれだけの売り上げを記録している背後には米国で最大の聖書出版会社ゾンダバン(Zondervan)の多大なバックアップが存在しているのである。この出版社は現在アメリカで一番ポピュラーなNIV聖書(新国際訳、新共同訳聖書のようなもの)を出版した会社でもある。NIV聖書は削除された語が約6万語以上もあるすっかり改ざんされてしまった聖書である。ゾンダバンのオーナー、ルパード・マードックは、同時にハーパー・コリンズ(Herper Collins)という大きな出版社も所有しており、そこからサタンの教会(Church of Satan)のサタンの聖書(The Satanic Bible)も出版されている。又、彼は1999年にロサン

ゼルスのカトリック大聖堂を建築する際に1千万ドル(約10億6千万円)もの寄付をしていることで有名である。

このメガチャーチブームの背後に、新世界統一を企てている人々の力があることにお気づきになってきていると思う。彼らは人間は本来「何かを礼拝したい」という欲求があるのをよく心得ている(これは神が備え付けたものであるが)。そこで宗教を利用して計画を実行しようとしているのである。その意味でリック・ワーレンの本は多大な貢献をしてきたと言える。これらのプロテスタント教会はやがてカトリック教会と合同していくことに必ずなるであろう。この同意は現在多くの教会とカトリック教会の間で進んでいる。

去ったヨハネ・パウロ2世は、キリスト教でない他の宗派との協定のための道慣らしを過去10～20年に渡って進めてきた。Assisi-世界宗教者会議ではローマ法王の呼びかけに世界各地から様々な宗教指導者達が集まり(例えば、キリスト教、仏教、神道、ヒンズー教、イスラム教、アメリカインディアン伝統宗教、ユダヤ教、ジャイナ教、アフリカ伝統宗教、シーク教、ゾロアスター教、その他)ローマ法王をこの世界の、そして合同教会のリーダーとして決定している。ちなみにこの集会中には、イタリアのミュージシャンのライブ演奏によりロック音楽が終始流され、オカルトのシンボルである3つのだろうそくがあちらこちらに置かれていた。



現在、私達の世界は、前例にない程宗教の一致という思想に向かって急速に動いている。様々な宗派、宗教の中にあつて結局私達は同じ神に仕えているのであるから、他の人の違った視点を許容することは必須なことであると盛んに討論されている。

そしてイエスの祈り「わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです」(ヨハネ 17:22)を挙げ宗教間の一致は聖書的であると言うのである。キリストがこの祈りをされたとき彼の心の中にはどのような種類の一致があつたのであろうか。彼らの言うように様々な宗教の違いを超え一致することで遂に地上に平和がやってくるということであつたのだろうか。けれ

ども彼は次のように言われなかったであろうか。「地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである」(マタイ 10:34)。彼の言うつるぎはもちろん比喩であり、それは霊のつるぎ、神の言葉である(エペソ 6:17 参照)。これを心にとめキリストの一致を願う祈りをもう一度新鮮な目で見たい;

「わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。…わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためにではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。…わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものではないように、彼らも世のものではないからです。…真理によって彼らを聖別してください。あなたの御言は真理であります」。(ヨハネ 17 : 6,9,14,17)

キリストは御言を土台とした神の民の一致を祈られたのである。真理はこの世の偽りの基準から分離させる(Ⅱコリント 11 : 2~4 参)。そして御言に立つということは、真の一致の最も大切な要素であり、またそれに伴う実があらわれてくるのである(テトス 2 : 11~14 参)。神の民は今、真心からの罪の悔い改めと、この世の標準に妥協するのではなく、御言の標準に立つことが必要である。そしてお互いに謙遜で柔和な心を持ち、自分達は真理の上に立っていると思っても、誤りに陥らないように常に気をつけていなければならないことをよく心得ている人々である。また間違いがあるのなら優しく正しあい、助け、支えあう。そして神はこのような教会をお用いになることができるのである。

第二天使の使命(黙示録 14 : 8)はバビロンからの分離を呼びかけており、更にヨハネの黙示録 18 : 2~4 では再警告を伴って第二天使の使命を繰り返しているのである。それに対比してエキュメニカル運動はバビロンと一致せよとのメッセージである。妥協は不可能なことである。今、神は人々に彼の真理に立つように呼びかけておられ、真理に立つ人々を集めておられるのである。

聖書の中にはただ3つの真理が述べられているのみである。

- ・イエスは真理である。(ヨハネ 14 : 6)
- ・神の御言葉は真理である。(ヨハネ 17 : 17)
- ・神の戒めは真理である。(詩篇 119 : 142)

宗教改革者たちは、御言葉を、預言をつぶさに研究し、教皇制が反キリストであることを明確にしていた。そして聖書の真理を自分の命よりも愛していたのである。私達も真理を、預言者を拒否することがないように、そして下記の言葉が私達にあてはま

るものでは決してないことを切に願う。

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」(マタイ 23 : 37)

参考：

このトピックについて興味のある方は、アドベンチストブックセンター(米国)で販売されている下記の本をお勧めします。

- ・デイブ・ウエストブルック Modern Spiritualism,
- ・Dr.ディリック・ワーレンの Purpose Driven Life,
- ・Dr.ウォルター・ファイト Total Onslaught, Truth Matters,
- ・ブライアン・ニューマン Voice of a Dying Planet 他。
- ・Truth Matters-An analysis of the Purpose Driven Life movement Herbert E. Douglass 著 Pacific Press Publishing Association
- ・Hidden Heresy-Is spiritualism influencing the Adventist Church? Tom Mostent 著 Pacific Press Publishing Association

*ニューエイジの教えと聖書の教えの対比

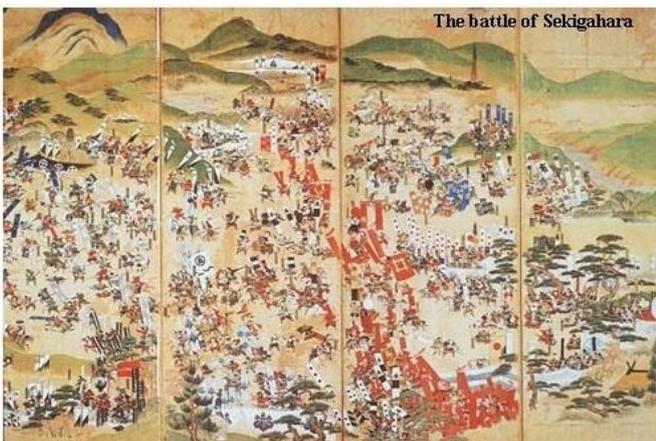
- ・聖書は、イエスは神の子だと教えている。
ニューエイジは、イエスは教師の中の一人だと教えている。
- ・聖書は、私達が恵みによって救われたと教えている。
ニューエイジは、私達がよい行いを励んでいくときに神になると教えている。
- ・聖書は、イエスのみが道であると教えている。
ニューエイジは、私達の内に存在しているキリスト性に目覚めるように教えている。
- ・聖書は、ルシファーが悪魔だと教えている。
ニューエイジは、ルシファーが真の神の子であると教えている。
- ・聖書は、我々は神を礼拝しなければならないと教えている。
ニューエイジは、我々は創造物を礼拝しなければならないと教えている。

- 聖書は、人間は創造されたと教えている。
ニューエイジは、人間の肉体は進化してでき、靈魂はずっと存在してきたと教えている。
- 聖書は、神は創造物の一部ではないと教えている。
ニューエイジは、神は創造物の一部であると教えている（汎神論）。
- 聖書は、復活を教えている。
ニューエイジは、輪廻転生 (reincarnation)を教えている。
- 聖書は、神の言葉は真理だと教えている。
ニューエイジは、真理は人間の内にあると教えている。
- 聖書は、全世界の人が目撃するキリストの再臨を待つように、彼の栄光の再臨は祝福された望みであると教えている。
ニューエイジは、新世界政府、統一通貨制度、そして教会(宗教) 一致を達成するのを援助してくれるマイトレーヤー (Maitreya、弥勒菩薩) を待つように教えている。
- 聖書は、罪から立ち返りなさいと教えている。
ニューエイジは、無知から立ち返りなさい、なぜなら罪というものはないと教えている。
- 聖書は、聖化はキリストからくると教えている。
ニューエイジは、我々の内にある神性を発見するように教えている。

天下分け目の大決戦

—その時歴史は動く—

金城重博



日本史において、豊臣秀吉の死後、政権を巡って争われた徳川家康と石田三成の間の決戦が関ヶ原の戦いであった。日本史上、非常に重要なターニングポイントの一つであり、「天下分け目の決戦」と言われている。慶長5年9月15日(1600年10月21日)のことであった。濃霧の中で、東軍の徳川家康と西軍の石田三成は、2時間ほど対峙し続けていた。やがて、霧も薄くなってきた頃、両軍の大激戦が繰り広げられた。ついに東軍が勝利し、家康が天下統一を成し遂げた。以後 265 年間、武士政権である江戸幕府が日本を支配していった。

宇宙の大決戦

世界史における「最後の争闘」は、キリストの主権とサタンの主権の政権争いである。それはこの小さな惑星地球ばかりでなく、宇宙を包含する「天下分け目の大決戦」となって展開されることが、ダニエル書一黙示録のテーマの一つである。

激戦場はこの地球

「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。……それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわざである。悪魔が、自分の時が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。……龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った」黙示録 12:7-9、12、17。

戦いの本質

天での戦いは、キリストの主権、統治権に関するものであった。それはキリストだけに属するもので、永遠不変のものであり、自分がそれに関与できないことを知ったサタンは、神の律法を攻撃し、それは自由と幸福のために不必要であると戦いを挑んだのである。

- ・天で始まった戦いは、この地球に移され、6千年の間戦われてきた。
- ・人類の父祖、アダムは第一戦において負けた。それ以来、サタンはこの世の君として自分の言い分が正しいと誇ってきた。
- ・4千年後にキリストとサタンが再び対決した。「神は肉体において現れた(1テモテ 3:16、欽定訳)、第二のアダム、キリストの生涯において戦いは激しく展開された。キリストは自己犠牲と自己否定の愛の律法に徹頭徹尾生きた。「事終われり」と言って息をひきとられた時、全天は救い主の勝利に凱歌をあげ、サタンは敗北した。神の自己否定の律法は完ぺきに擁護された。

「しかし、サタンは、その時まで滅ぼされなかった。天使たちは、その時になってもまだ、大争闘に含まれていることをみな理解しているわけではなかった」希望下 287。

- ・まだハルマゲドンの戦いが残っていた。「定められた終わりの時」の大決戦である。キリストの勝利は、神の民によって実証されなければならないのである。さもなければ、サタンは納得しない。

「するとこんどは別な欺瞞が持ち出されることになった。サタンは、あわれみが義を滅ぼし、キリストの死が天父の律法を廃止したと宣言した。しかしもし律法を変えたり、廃止したりすることが可能であったら、キリストは死なれる必要がなかったのである。律法を廃することは、罪とがを不滅なものにし、世をサタンの支配下におくことになる。イエスが十字架上にあげられたのは、律法が不変であったからであり、律法の戒めに従うこと以外に人が救われる道はなかったからである。それなのに、キリストが律法を確立された手段そのものを、サタンは律法を廃するものであると言った。この点について、キリストとサタンとの間の争闘における最後の戦いが起こるのである」希望下 289。

「神の律法に対する戦いは、天に始まったが、それは世の終りまで続くであろう。どの人もみな試みられる。全世界の人々が、従うか従わないかの問題を決定しなければならない。すべての人が、神の律法か人の律法かをえらばせられるのである。この点で区別の線が引かれる。二種類の人たちしかいないのである。どの人の品性も完全に明らかにされる。そして彼らはみな、忠誠の側をえらんだかそれとも反逆の側をえらんだかを示すのである。

それから終りが来る。神はご自分の律法の正しさを立証し、その民を救われる」希望下 290。

神の律法は神の主権、権威、品性を表す。神の律法の第 4 条、安息日にそれが具体化されている。従って、最後の争闘は安息日に争点が集中する。「神の律法か人間の律法か」という戦いは、神の主権の問題である。

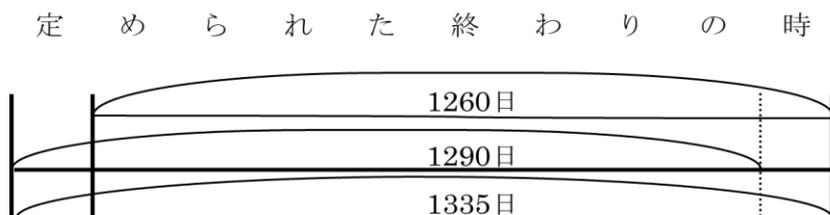
神のご品性は、自己犠牲と自己否定の愛である。主イエスはカルバリーで自分の思いでなく、天父のみ旨に完全にゆだねて、「己を空しく」して勝利した(ピリピ 2:5-11)。最後の戦いにおいて期待されている勝利も、自己犠牲、自己否定による。天父のみ旨に完全に服従するデモンストレーションが期待されている。それを

144,000 は見事に成し遂げるのである。純粋な真理と純潔な品性をもってキリストのみ像を完全に反映することによって全宇宙の安全が確保される。サタンの主張一神の律法は守れない、自己否定は不可能、義と憐れみは両立しない—が完全に覆される。十字架=自己否定が神の民の生活に高く掲げられる。サタンの主張が永遠に封じられる時が近づいているのである。

「天下分け目の大決戦」の時？

その時は定まっている。それはいつか？感謝すべきかな、憐れみの神は前もってこの重大な事件について知らせてくださる。この時のことを聖書は「主の日」「主の恐るべき日」「憤りの日」「主の怒りの日」とも呼んでいる。

ハバクク 2:3 には「定められた時、終わりの時」と言われている。ダニエル 8:17,19 には「終わりの時」「憤りの時、定められた終わりの時」と言われている。ヘブル語で es qets (エス・ケッツ) =終わりの時の終わりという意味だそう。神はさばきのために「日を定めて」おいでになる(使徒 17:31)。



ダニエル 8 章～12 章の研究で学んだように、現代の預言者は、「大終結の前夜まで延びている『預言的期間(複数)』」と言っている(レビューアンドヘラルド、1883 年 9 月 25 日)。それはダニエル 12 章の約 3 年半の期間(1260 日、1290 日、1335 日)であるに違いない。

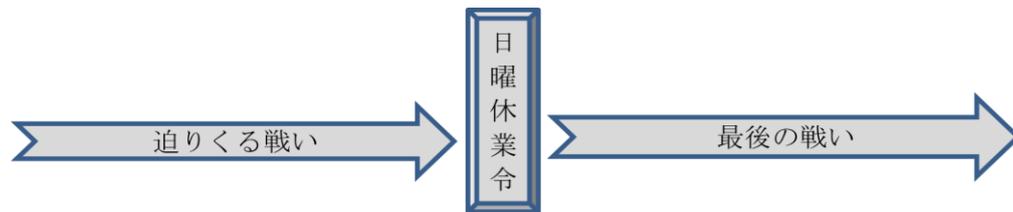
多くの者は、ダニエル 12 章のこの期間を過去にすでに起こったこととする。しかし、ダニエル 12 章の預言的期間は、文脈から見て、未来に適用すべきであることは、ハッキリしているはずだが、なぜか、この新しい光は執拗に拒まれている。なぜだろうか？私にとって、これはまことに不思議でならない。

しかし、「これらの異常な出来事はいつになって終わるのですか(欽定訳)」とダニエルは聞いているのである。「これらの異常な出来事」とは特に 11:40 節からのことである。終わりの時に「北の王」法王教が世界支配を成し遂げるとき、神の民に聖霊の大雨、後の雨が注がれ、大いなる叫びによってパチカンの世界支配陰謀が暴露される。すると法王教は驚き、怒り最後の戦いの矛先を神の民に向ける(初代文集 440、大争闘下 376)。それが「東と北からの知らせ」と言われている。東(日の出る方)は、神の印を受け、品性が完成された神の民の状態を言う。北は神のみ座のあるところである。そこから春の雨、収穫の雨、後の雨が注がれる。

品性完成した 144,000。それに対峙するは悪に熟した地上のあらゆる勢力の大連合である。ミカエルが立ち上がる。国始まって以来、かつてない大いなる艱難が始まる。神の民が救出され、栄化される。これらの異常な、不思議なことがいつ終わるかということに預言者ダニエルは興味を集中しているのであって、1840 年代のことではない。預言者ホワイト夫人はある牧師(ヒューウィット)がこの預言の期間を過去に適用したことをたしなめたことがあった (MR5-203)。

更に次のようにも言われた：「ダニエル 12 章を読み、研究しようではないか。それは終わりの時の前に、我々すべての者が理解を必要とするであろう警告である(未来形)」手紙 161、1903、7-30、スタディバイブル旧 1170)。「終わりの時の前に理解されるべきである」と書いたのは何時であろうか？1844 年か、1888 年か、1901 年か、1903 年か？そう！ 1903 年に言われたのであるから、ダニエル 12 章の預言的期間は 1844 年以前ではなく、当然未来に適用すべきではないだろうか？

現代の預言者は、この「定められた終わりの時」の期間のことを「最後の争闘=Final conflict」と言っている。それはいつから始まるか？日曜休業令というはっきりしたしるしが与えられてから始まる。日曜休業令の前までを「迫りくる戦い=Impending conflict」(大争闘下第 36 章)と言う。



日曜休業令からキリストとサタンの統治権争いが、いよいよ最後の大決戦に入るのである。

ヨエルはこの時のことを「このようなことは昔からあったことがなく、後の代々の年にも再び起ることがないであろう」（ヨエル 2:2）と言っている。

神の大時計では決定されている：

「だが定められた広大な軌道にある星のように、神の目的は急ぐことも遅れることもない。大いなる暗黒とけむるかまどの象徴を通して、神はアブラハムに、イスラエルがエジプトで奴隷生活を送ることを示し、その滞在期間は四百年であると宣言された。『その後かれらは多くの財産を携えて出てくるでしょう』と神は言われた(創世記 15:14)。このことばに対して、パロが誇りとする帝国は、全力をあげて戦ったがむだだった。神の約束に定められていた『その日に、主の全軍はエジプトの国を出た』(出エジプト記 12:41)。同じように、天の会議では、キリスト来臨の時が決定されていた。時という大時計がその時間をさし示すと、イエスはベツレヘムにお生れになった。

『時の満ちるに及んで、神はみ子を……おつかわしになった』(ガラテヤ 4:4) (希望上 22)。

この「定められた終わりの時」はいつから始まるか？

1. まず、「常供が除かれる」ダニエル 12:11

日曜休業令が立つ前に聖書は「常供が除かれる」と言っている。この常供が何であるかということに関しては、我が教会でかつて白熱した議論があった。預言者はその当時は知る必要のないことであったのでその議論を止めるように言われた。しかし、いつまでも知らなくていいということではない。漸進的に真理は示される。「必要な時が来たとき、理解される」のである。そして、今そのことが再び研究されつつある。なぜなら、もうまもなく「定められた終わりの時」が始まるからであろう。アドベンチストの中で主流の解釈は「イエスの仲保」である。「異教」か、この世の指導者たちの「主権」か、あるいは「安息日」か。

近い将来預言の研究者に一致した意見が登場するだろう。

2. 日曜休業令が発布される ダニエル 12:11、マタイ 24:15、ルカ 21:20

・日曜休業令がまず発布されて、しばらくして日曜日遵守が強要される。日曜休業令が発布(enact 制定)され(クリスチャンの奉仕 230)、休業を要求される時には我々は仕事を休めばよいのである。しかし、第一日目を礼拝日として遵守するように強要(enforce、クリスチャンの奉仕 231)される時には、毅然と安息日遵守の側に立たなければならない。

ある SDA の牧師が、日曜休業令のことについては聖書のどこにも書いてない。日曜休業令など日本と関係ないと言われたそうだ。それにどう反論するか？ 確かに聖書には日曜休業令という言葉はない。しかし、その言葉がないからと言って否定してはならない。「三位一体」という言葉はどこにもない。安息日が土曜日であるとどこにも書かれていない。しかし、SDA はそれを証明する術を知っている。黙示録 13 章に「獣の刻印」の強要が全世界になされることが書いてある。獣は、ダニエル書 7 章の研究からローマ法王教であることは明白である。法王教の刻印とは何か。法王教の権威の印は、日曜日であると彼ら自身が言っている。神の権威の印は第七日安息日である。

3. 定められた時になって、隠されていた十戒が持ちだされ、全世界に証がなされる。

人間が神の律法を法令をもって破り、サタンが「自分の時が短いことを知り」6 千年の知恵と術を結集し

て働きを展開するとき、神も著しく働かれる(詩篇 19:126)。その時、ご自分の権威の印、十戒が幾千年も隠されていたところから持ち出されて証をする。

「神のみこころが明らかに示された義人たちがまだエルサレムに残っていたが、その中のある人々は、十戒の戒めが書かれた石の板を納めた聖なる箱が、乱暴な人々の手に入らないようにしようと決意した。彼らはそれを決行した。彼らは嘆き悲しみつつ、箱をほら穴の中に隠したのである。箱はイスラエルとユダの人々の罪のゆえに、彼らから隠されて、再び彼らにもどることはないのであった。その箱は今なお隠されている。それはそこに隠されて以来、人手に触れたことはないのである」国指導下 70。

「神殿が破壊される前にイスラエルの誇りであり、彼らが神に対して罪を犯していた間に偶像礼拝で満たした神殿の破滅について、神はご自分の忠実な僕たちに知らせてあった。また、イスラエルの捕囚についても彼らに示していた。これらの義人たちは、神殿が破壊される直前に石の板の入っている聖なる箱を嘆きと悲しみのうちに移し、イスラエルの人々から覆われるため洞窟に隠した。彼らの罪の故にそれは二度と彼らに戻ってこなかった。その契約の箱はいまなお隠されている。隠されて以来それは、一度も妨げられていない」 (1864、SG,Vol.4:114-5 S.of P.Vol 1: 414 (1870)。

「『主〔キリスト〕はシナイ山でモーセに語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち神が指をもって書かれた石の板をモーセに授けられた。』これらの石の板の上に書かれたことは、どれも除去することができなかった。律法の貴重な記録は契約の箱に置かれ、尚もそこで、安全に人類から隠されている。しかし神がお定めになった時に、戒めの無視と偽の安息日を守る偶像崇拜に対抗して、全世界への証となるため、神はこれらの石の板を持ちだされるであろう」(MS 122,1901年)。

「神の律法の不変性に関する証拠はふんだんにある。それは決して抹消されたり、破壊されることのないように神の指で書かれた。神がそれらをお書きになったままの状態で、石の板は神によって隠されていて、大いなる審判の日に提示される(取り出される)ことになっている」(RH 1908年3月26日)。

「審判が行われ、数々の書物が開かれる時、すべての人はその書に書かれている事柄に従って裁かれるであろう。その時、その日まで神によって隠されていた石の板が、義の標準として全世界に提示されるであろう。その時男女は、彼らの救済の必要条件が神の完全な律法への服従であることを悟るであろう。罪の弁解ができる者は一人もいなくなる。その律法の義の原則によって、人々は生か死かの判決を受けるであろう」(同 1909年1月28日)。

「神はご自分の契約をお破りにならず、またみ口から出たことをお変えにならない。神の言葉は、神のみ座のように変わることなく、永遠に固く立つのである。審判のときに、神の指によって明らかに書かれたこの契約が持ち出されて、世界は無限の神の審判廷に引き出されて、宣告を受けるのである」国指上 155。

● では神はご自分の軍隊をどのように備えられるのだろうか？

この最後の決戦に①神の軍隊はどのように出陣に備えられるのか？ ②敵(サタン)はどのように自分の軍隊を招集し、備えるのかを考えてみたい。

日曜遵守令は生ける者の裁きの始まり

問題は、日曜遵守令から生ける者の裁きが始まるということが聖書から証明できるかということである。よく聞かされる言葉:「大争闘に『死んだ義人の裁きからいつ生ける者の番になるかだれも分からない』と書いてある。ある人はもうすでに裁かれているかもしれない」と。しかし、原文で見ると、裁きが「どれほど速やかに(how soon)生ける者の番になるか誰も分からない」というのであって、「いつ生ける者の裁きが始まるか誰も分からない」ということではない。キリストの再臨がどれほどすみやかに来るか誰も分からないのと同じ意味である。

死んだ義人の裁きが、1844年から始まるということをもっと神が知らせたなら、まして生ける者の裁きがいづれ始まるか知らされないはずがない。それが特にクライマックスの大決戦の時であるなら。「定められた時」がどの時点で始まるか分からないはずがない。「まことに主なる神は...預言者にその隠れたことを示さないでは、何事もなされない」(アモス 3:7)。何月何日という「特定の時」ではなく、イエスとダニエルは「荒らす憎むべきものが立つ」という事件が決定的なしるしとなることを預言している。

聖書を見よう:

・黙示録 13 章は最後の戦いを描写している。法王教がその致命的な傷から完全に立ち直って全世界に新世界秩序への服従を強要する時、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」との挑戦がなされる。その時、神の民によって最後の使命が伝えられる。「神の裁きの時は来た」と。1844 年にこの預言は部分的に成就したが、完全に成就するのは日曜遵守令が強要される時である。生ける者の裁きが始まるのである。

・黙示録 13:8 に「小羊の命の書に名がしるされていない者は、みな獣を拝む」とある。まだ誰も獣を拝むか創造主を拝むかのテストに遭遇していない。この「最後のテスト」、第一日安息日、獣、すなわちローマ・カトリック教会の権威のしるしである日曜日礼拝に屈するか、あるいは創造主の権威のしるしである第七日安息日を守るかの選択を迫られるのである。その時、小羊の生命の書に名が記されない者は、「みな」獣を拝むのであるから、死者は含まれない。この聖句は、生ける者のさばきのことを指している。従って、生ける者の裁きは、日曜遵守令から始まることが分かる。黙示録 13 章の獣とその像とその刻印が強要される時、黙示録 14 章の生ける神の印を受ける 144,000 が出現する。永遠に運命を決定する事件は、この地上では日曜遵守令という事件であり、天においては審判の時である。

次の文ではっきりする:

「主は私に、恵みの期間が閉じられる前に、獣の像が形作られるということをはっきり示された。なぜなら、それは神の民のための大いなるテストだからである。それによって彼らの永遠の運命が決定されるであろう。… [黙 13: 11-17 を引用] …

これは神の民が印される前に受けなければならないテストである。神の律法を守ることによって神に対する忠誠を証明し、偽の安息日を受け入れることを拒絶したすべての人々は、主なる神、エホバの旗の下に並び、生ける神の印を受けるであろう。天に起源を持つ真理を放棄し、日曜安息日を受け入れる者は獣の刻印を受けるであろう」(Letter 11, 1890 年、スタディバイブル新 587)。

定められた終わりの時

日曜 休業 令	生ける者の裁き	1260日
	日曜遵守令	1290日
		1335日



生ける者の裁きにおいて神の軍隊が備えられる

- ・調査審判は「永遠の福音」と言われている(黙示録 14:6)。裁きは怖いという先入観は取り除かねばならない。調査審判がどうして「良きおとずれ」であり得よう?
- ・さばきの時が来て①「彼(サタン)の主権が奪われ(ダニエル 7:26)、②主権がキリストに与えられ(14)、③聖徒たちに主権が与えられるからである(27)。
- ・さばきの時に罪が永遠に除去されるからである(使徒 3:19、大争闘下 218、レビ 16:30)。再び罪を思い出さないほどの処理がなされるからである(へブル 10:17、エレミヤ 31:34、50:20)。
- ・さばきの時に愛の律法、自己否定の律法が心と思いに書きつけられるからである(へブル 10:16)。
- ・さばきの時に最後のあがないが完成するからである (レビ 16:30)。
- ・さばきの時に信仰による義認が完全に成就し、新しい契約が完全に成就するからである(大争闘下 216)。
- ・さばきの時に後の雨によって品性が完成するからである(牧師への証 506)。
- ・さばきのプロセスによって神の民は主の栄光にあずかるからである(大争闘下 140)。

1. 調査審判と罪の除去、すなわち最後のあがないの経験

徹底的な調査審判がある。神はいつ、いかに神の民を出陣に備えさせるかを次の文章に見ることができる：

・国指下 193-196 「人間の布告に服従するように要求される」時、(ここは明らかに生ける者の裁きを描いている) 罪の除去がなされて、「二度と世俗の腐敗に汚されることはない」。「今や彼らは、誘惑者の計略から永遠に安全なものとなる」。生ける神の印が押された 144,000 が出現する。

・初代文集 437-440 ここに教会の徹底的な震いが描かれている。「最後のテスト」日曜遵守令によって震われて残った神の民について「わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。わたしは、前に涙を流し、苦悶しているのを見たその人々を見せられた。彼らの回りの守護の天使は二倍に増やされた。そして人々は、頭から足まで、武具をまとっていた。彼らは、兵卒の隊のように、規律正しく動いた」と描写されている。

・マラキ 3:1-4、「彼(キリスト)は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる」。

・レビ記 16:30 「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」。

調査審判は、悔い改めと信仰によって法廷に出る者たちには「福音」なのである。マラキはそのことを「見よ、…またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者」と言っているのである。だから、ヨハネは「神の裁きの時が来た」ことを永遠の福音と呼んでいるのである。ただ調査審判だけなら福音(喜びのおとずれ)とは言えない。罪が再び思い出されなくらい完全に取り除かれる。そして彼らの心の中に愛の律法が永久に書き記される。アダムの罪を犯す前の心の状態に回復されるのである。

『わたしが、それらの日の後、彼らに対して立てようとする契約はこれであると、主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、彼らの思いのうちに書きつけよう』と言い、さらに、『もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない』と述べている。(ヘブル 10 : 16,17)

この素晴らしい「最後のあがない」「特別なあがない」「特別なきよめ」を我々の先駆者たちは信じてきた。この経験は 1844 年以前は提供されなかったものである。罪の除去は 1844 年以後に与えられるものである。死んだ義人は、「死んで後、さばきを受ける」(ヘブル 9 : 27)。しかし、生きている義人は生きている間に罪の除去を経験するのである。この「定められた終わりの時」に経験するのである。

「オメガ」の著者、ルイス・ワルトン弁護士は、この経験を「Extraordinary good news =たぐいなき良きおとずれ」(Omega II 120)と呼んでいる。この「定められた終わりの時」に「聖所は清められて正しい状態に復する」ことが成就する。ユダヤ人に成就しなかった「とがを終らせ、罪に終りを告げ、不義をあがない、永遠の義をもたらす、幻と預言者を封じ、いと聖なる者に油を注ぐ」という預言が成就するのである(ダニエル 9 : 24)。

これが不死に備える最後の働きであり、ここで初めて罪なき完全な聖徒たちが出現するのである。それが 144,000 と呼ばれる集団である。

サタンはこの「たぐいなき良きおとずれ」「最後のあがない」「特別なきよめ」を最も憎んでいる。なぜなら、この経験をする民によって神の律法、神のみ名、神のご品性が擁護され、大争闘に終止符が打たれるからである。「サタンは数え切れないほどの多くの策略を考え出して我々の心をつらえ、我々が最もよく知っていなければならぬ働きそのものについて我々に考えさせまいとしている」(大争闘下 221)。その働きとは特に「聖潔の完成」「最後のあがない」の働きである。仲保者イエスが至聖所におられる間にその働きを完成なさることは、靈感の言明するところである。にもかかわらず新神学は、罪が完全に取り除かれるのはキリストの再臨の時だとし、至聖所における最後のあがない、罪の除去の働きを無効にしている。

信仰による義認、信仰による聖化、そして罪の存在からの完全な解放は再臨の時だとすると、それは、ルターやウエスレーの説いた聖所(第一の部屋)の働きでよかったのであり、至聖所(第二の部屋)の働きは何の意味ももたらさない。至聖所の働きを無効にすることである。預言者ホワイト夫人は、我が教会にやってくる背教のオメガに「身震いした」と言っている。セブンスデー・アドベンチストとしての立場、アイデンティティを与える真理が突き崩され、イエスの両親がイエスを見失ったあの焦燥、また空っぽの墓にイエスを見

いだせなかったマリヤのように、アドベンチストとしての喜び、希望、確信を失ってしまうのである（大争闘下 222、初代文集 399、415 参照）。

2. 罪が除去された神の民が次に経験することは、後の雨の注ぎである。

・初代文集 440 「わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。多くの人々が縛られていた。夫に縛られていた妻もあれば、親に縛られていた子供もあった。真理を聞くことを妨害されていた心の正しい人々は、今、熱心に真理を自分たちのものにした。親族を恐れる気持ちは全くなくなった。そして、真理だけが彼らの前で高められたのである。彼らは、飢え渴くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った」。

実は罪の除去も後の雨、聖霊の働きである。天でイエスがなされる働きを、聖霊は同時に地上で神の民にする。品性完成も後の雨の働きである(エペソ 1:13、4:30、TM506)。生ける神の印も天使の働きであり、聖霊が神の律法、品性を心に印するのである。これも「定められた終わりの時」に成就する。ヨエル 2 章の聖霊の注ぎの預言は、部分的に弟子たちにペンテコステとして与えられたが、この「定められた終わりの時」に完全に成就する。背教していく教会に暗雲がたちこめているのは、大雨が降る証拠であるから希望を持つとう。背教に失望するのではなく、品性完成、み業完成をもたらす大雨、後の雨がまもなく降る証拠である。エリヤはしもべに「上って行って海の方を見なさい」と言った(1 列王 18:43)。彼は「何もありません」と答えた。七度行って見た時に「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」と報告した。「すると間もなく、雲と風が起り、空が黒くなって大雨が降ってきた」。我々も小さい雲—背教から真っ黒い雲—大背教を見せられるであろう。我が教会は「今にも倒れるかのように見える」(2SM380)であろう。しかし、「今や、背信に満ちている」(8T250、スタディバイブル旧 985)の中にあっても、最後まで忠実な者たちに大雨が約束されている。「教会の危機と沈下が最高の時」(5T209)に、神はシオンに目を注ぎ、約束を成就するであろう。

・国指下 326 「教会はキリストの義の武具をまとめて、最後の争闘を始めなければならない。『月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のよう』に、教会は全世界に出て行って、勝利に勝利を収めなければならない(雅歌 6:10)。教会と悪の勢力との闘いの最も暗黒な時は、教会が最後に救出される日の直前である。しかし、神に信頼する者はだれひとりとして恐れる必要はない。『あらゆる者の及ぼす害は、石がきを打つあらしのごとく』であっても、神は、神の教会にとって、『あらしをさける避け所』となられる(イザヤ書 25:4)。」

3. 大いなる叫び(黙示録 18:1-4) が全世界へ短期間に

しかし、完全な約束は「定められた終わりの時」に成就する。その時、弟子たちが福音宣伝に出で立ったように、「み国の福音は全世界に述べ伝えられるであろう」と言われた預言が、山火事の速さで、稲妻のような速さで短期間に成就する。この聖霊の異常な働きに働き人はびっくりする。ほとんどが聖霊によって資格が与えられた凡人によってなされ、偉い人が最後の働きに携わるのはわずかであると言われている。

神は神の民を軍隊(雅歌 6:10)、また軍馬にたとえておられる。

「万軍の主が、その群れの羊であるユダの家を顧み、これをみごと軍馬のようにされるからである」(ゼカリヤ 10:3)。

黙示録 6 章から 7 つの封印が描写されている。第一の封印が解かれて「白い馬」が出陣する。すると「赤い馬」「青白い馬」が神の民に向かって迫害の矢を向ける(黙示録 13 章によると背教プロテスタントアメリカとローマ・カトリックの共同戦線)。バビロンにとりこたえて暗黒に光を求めて待っている「黒い馬」から多くの神の民が加わる。多くの殉教者が出る。

両陣営とも黙示録 4 章、5 章の生ける者のさばきというプロセスによって出現する。勿論、両陣営とも「定められた終わりの時」の前から戦いの準備をする。本物である教会が白い馬となって大いなる叫びをあげる前に、偽物のリバイバルが起こる。今、我々の目の前でその準備がなされている。聖霊—カリスマ運動、メガチャーチ運動は偽リバイバルであるにもかかわらず、本物の後の雨—聖霊の特別な働きと見なされている。敵が先に陣営を張る。ペリシテ人とイスラエルの戦いのように(1 サムエル 17:1)。しかし、神は日曜遵守令で教会を大きな震いにかけて後、後の雨を注ぎ出陣させるのである。ギデオンが兵士の大部分を減らしたように(士師 7)、神の民の大部分の者が震われる(大争闘下 378)。

定められた終わりの時

日曜休業令	日曜遵守令	生ける者の裁き 罪の除去	1260日
		後の雨—神の印 大いなる叫び	1290日
			1335日

神の声—神の民の救出
再臨の日時発表



白い馬

赤い馬

黒い馬

青白い馬

バビロンの罪が暴露される(大争闘下 376)。

4. すると新世界秩序の頭、ローマ法王教は激しく怒る

ダニエル書 11:40~45 「北の王」法王教の世界支配が預言されている。次々と国々を制覇し、新世界秩序構築が成ったと思った時、「東(生ける神の印を受けた)と北からの知らせ(神のみ座から後の雨が注がれた)神の民」が法王教を驚かせ、怒らせる (初代文集 440、大争闘下 376 参照)。

アベルの純潔を見てカインは怒って迫害に出た。イエスの純潔を見てユダヤ人たちはイエスを迫害し、十字架につけた。同じように、教会が白い馬となった時、迫害を呼ぶのである。

● サタンは自分の軍隊をどのように備えるのだろうか？

ここで、敵はどのように出陣に備えるのかを考えてみよう。戦いにおいて敵を知ることは必須である。ラオデキヤ教会は敵軍がすぐそこまで迫っているのに無関心で昔のイスラエルのように、「平和だ、無事だ、災いは来ない」(1テサロニケ 5:3、エレミヤ 5:12)と言い、指導者はラッパを吹かない。「また、もしラッパがはっきりした音を出さないなら、だれが戦闘の準備をするだろうか」(1コリント 14:8)。見張人が、「ラッパの音に気をつけよ」と言っても、民は「われわれは気をつけることはしない」(エレミヤ 6:17)と言うのである。

「この大欺瞞者サタンが最も恐れていることは、われわれが彼の策略を見破ることである」大争闘下 258。

だからサタンはどうするだろうか? 「自分と自分のやり方を隠すのが、サタンの手である」同。「われわれが彼ら(サタンと悪天使)の策略に無知である限り、彼らはわれわれには想像もつかないほど優位にある(大争闘下 257)からである。

「こうした過去の記録の中に、われわれは、われわれの目の前にある争闘があらかじめ示されているのを見ることができる。これらのみ言葉の光と聖霊の解明とによって見るときに、われわれは悪魔の策略を見破ることができる」大争闘上序 9。

「真理と誤謬との間の争闘の模様を解明すること、サタンの策略を明らかにし、これに抵抗して勝利する方法を示すこと、神は正義と慈愛をもって被造物を取り扱われるということが明らかになるよう、罪の起源とその最終的処置に関して光を投げかけつつ、悪という大問題に満足のゆく解決を与えること、そして神の律法が聖であって不変のものであることを明示すること—これらが本書の目的である」大争闘上序 10。

だから、サタンは「各時代の大争闘」を読ませないようにする。

さて、敵の連合軍について黙示録に見よう:

- ・黙示録 13 章によると海からの獣(ローマ・カトリック教会)と地からの獣(プロテスタントアメリカ)が連合する。
- ・黙示録 16 章によると龍(心霊術)も連合する。

そのことを預言者 E.G.ホワイトは次のように言っている:

「サタンは、**霊魂不滅**と**日曜日**の神聖化という二つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は**心霊術**の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す。**合衆国の新教徒**は、率先して、**心霊術**と手を結ぶために淵を越えて手を差し伸べる。彼らはまた、**ローマの権力**と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この**三重の結合**による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである。

心霊術が現代の名ばかりのキリスト教をますますそっくりまねるようになるにつれて、それは人々をだまし、わなにかけるのに、いっそう大きな力を持つようになる。サタン自身も、近代的な形態に応じて姿を変える。彼は光の天使を装って現われる。心霊術を通して奇跡が行なわれ、病人はいやされ、否定することのできない多くの不思議なことが行なわれる。そして悪霊が聖書に対する信仰を告白し、教会の諸制度に敬意をあらわすので、そうした霊の働きは神の力の現われとして受け入れられる」(大争闘下 350)。

※アメリカでキリスト教テレビ番組を見ると、この預言の成就に驚かざるを得ない。

「①現在は自称キリスト者と不敬虔な人たちとの間の区別がほとんどわからない。教会員は世の人々が愛するものを愛し、すぐに彼らといっしょになるので、サタンはこの人たちを一体として結合させ、すべての人を心霊術の味方に引き入れることによって、自分の立場を強化しようと決意している。②カトリック教徒は、奇跡を真の教会の一つの確証として誇っているので、不思議なことを行なうこの力に容易にだまされる。また新教徒も、真理のたてを投げ捨ててしまったので、同じように惑わされるであろう。旧教徒、新教徒、それに**世俗の人たち**もみな同じように、力のない形だけの敬虔を受け入れるであろう。③そして彼らはこの**合同の中に、全世界を改心させるための一大運動**と、長く待ち望んでいた**福千年期の先触れ**を認めるのである」(同 351)。

※①メガチャーチ運動はまさに人々の必要を優先して成功している。

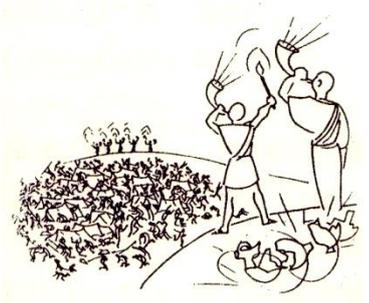
※②カトリックのマリア出現の奇跡は世界で非常な勢いで増えているが、マスコミはほとんど報道しない。

※③現在、**宗教大連合**はキリスト教を越えて展開している。ローマ・カトリックは、すべてのキリスト教ばかりでなく、聖公会、ギリシャ正教会、ユダヤ教、神道、仏教、イスラム教、...あらゆる宗教を、愛と一致、平和と安全のスローガンで一つにし陣地を固めている。平和の使者と称えられたヨハネ・パウロ 2 世は見事にそれを成し遂げた。わたしは DVD で動画を見たとき驚きを禁じ得なかった。世紀の大伝道者、ビリー・グラハムを始め、アメリカの TV 大伝道者たちは見事にローマに屈した。まさにこれはプロテスタンティズムの終焉である。あとはベネディクト 16 世がどんな狡猾な方法で長年の陰謀を成し遂げるかである。

・黙示録 17 章によると、ローマは、「10 の角」すなわち全世界の指導者たち、王たちの支持も獲得する。そして最後の戦いに出陣する。小羊イエスと、選ばれた忠実な者たちに戦いを挑んでくる。

5. 大決戦の開始!

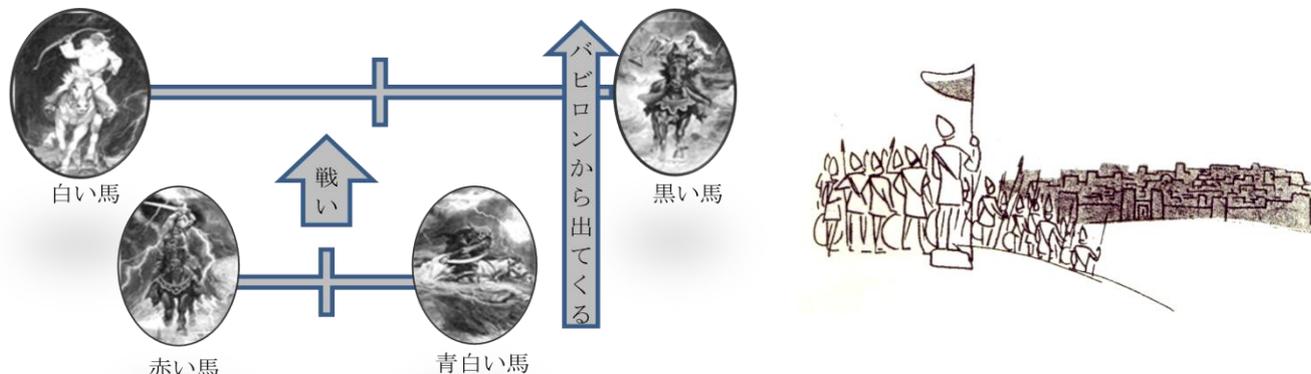
「二つの軍隊がはっきりと分かれて**対峙する**であろう。双方の違いがあまりにも著しいため、真理を悟った多くの者は、神の戒めを守る人々の側につくであろう。最後の闘争の前に、このとてつもない働きが戦闘状態の中で起こるとき、多くの者は投獄され、多くの者は都市や町々から命からがら逃げ出し、多くの者は真理を守るために立ち、キリストのために殉教するであろう。…あなたは、耐えられないほどの試練にあうことはないであろう。イエスはこれらのすべての試練、そしてはるかに激しい試練に耐えられたのである」



(3SM 397-398)。

図解してみよう：

迫害の矛先が「白い馬」「144,000」に向けられる。黙示録 6 章の「赤い馬=プロテスタントアメリカ」「青白い馬=ローマ・カトリック」は連合して「白い馬=144,000」に戦いを挑んでくる。黙示録 13 章によると、海から上ってくる獣=ローマ・カトリックと地から上ってくる獣プロテスタントアメリカが連合することになっている。



こうして「光と義の完全な武具で武装し、教会は彼女の最後の戦いに突入する」 TM17。

「第五の封印が開かれた時、幻の中で予言者ヨハネは、祭壇の下に、神の言葉のゆえに、またイエス・キリストの証のために殺された仲間を見た。この後、黙示録 18 章に描写されている光景が現れた。その時、忠実で真実な者たちは、バビロンから呼び出されるのである [黙 18 : 15 を引用]」 (MS 39, 1906 年) (スタディバイブル新 575)。

「多くの者は投獄され、多くの者は都市や町々から命からがら逃げ出し、多くの者は真理を守るために立ち、キリストのために殉教するであろう」 (3SM p397)。

6. 神の声—神の民の勝利—再臨の日時発表！

「あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受ける。彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」 (黙示録 17:12-14)。

「天から神のみ声が聞こえて、イエスのこられる日と時とが宣言され、永遠の契約が神の民に伝えられる。どんな雷鳴も及ばぬとどろきをもって、神のみ言葉が地上になりひびく。神のイスラエルは、耳を傾け、目を上方に注いで立っている。彼らの顔は神の栄光に照らされて、シナイ山から帰ってきたときのモーセの顔のように輝いている。悪人たちは、彼らを見つめることができない。神の安息日をきよく守ることによって神をあがめてきた者たちに、祝福が宣言されると、勝利の力強い叫びが起こる」 (大争闘下 418)。

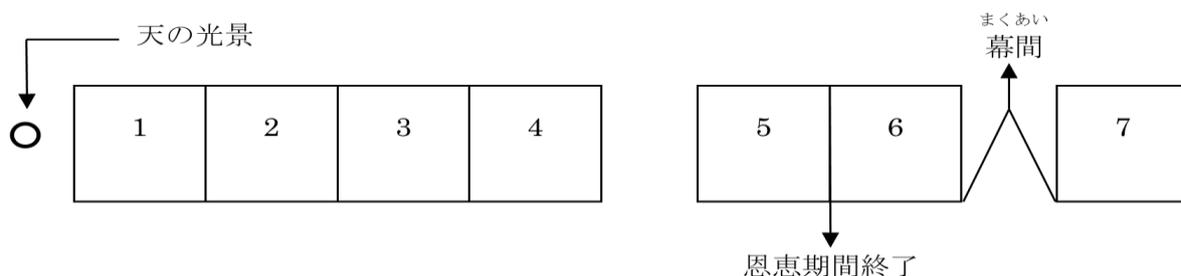
ついにこの地上で流浪し、苦悩し、戦ってきた聖徒たちが勝利し、モーセのような栄光にあずかる。神のみ声で神の民は永遠に救出される。夢見てきた宇宙旅行が罪なき民にゆるされる。ああ、なんという輝かしい朝であろう！ 千年の間天で過ごしてあらゆる神の神秘を研究する特権、そして 7 つの封印された巻物を開いてその書かれていることをはじめて理解する特権、キリストとサタンの大争闘のパノラマを見る特権、そして、サタンさえひれ伏し自分の上を下った判決が正しいことを認める。ついに「神は愛なり」という叫びが全宇宙にこだまする瞬間を目撃する特権、十字架で傷つけられたみ手、み足を自分の目で見る特権、全宇宙の被造物がそのお方に完全に仕え、「王の王、主の主」とハレルヤコーラスを歌う聖歌隊に参加する特権、.....あまりにも計り知れない特権が、この罪深い私にさえ提供されている!.....書きながら、もう言葉を失うばかりだ！ 神は愛なり！ ハレルヤ！ アーメン！

『七つの封印』



2008年4月の春のセミナーは、ファウラーM.D.による黙示録4～8:1までの7つの封印の研究であった。全く従来の解釈と異なるので、戸惑った方が多かったと思う。しかし、黙示録の終末的適用に新鮮さと力を感じた。

村上良夫氏はその「ヨハネ黙示録講義」に6章と7章は「非常に難解な箇所、SDA コメンタリーを見ても、”may”という言葉、つまり“～かもしれない”とも考えられるという推測の助動詞ばかり出てくる。7つの封印については、確定した解釈がない。ただはっきりしているのは、これらが終末に向かってのみわざの進行を表しているということだけは間違いないということである」と記している。そして彼は、7つの封印、7つのラッパ、7つの鉢(災害)も1～4、5、6そして7で終わるというパターンを指摘している。ファウラー先生は同じように次のようなパターンを紹介している(4-2-1)。



村上氏は三重の可能な解釈を挙げている。

1. 当時の信徒たちにとっての意味
2. 歴史の流れにあてはめた場合の解釈
3. 現代の私たちにとっての意味

ファウラー先生も村上氏と似てはいるものの、黙示録の解釈においては優先すべきは「終末的適用」だと言う。今まで起こったことは部分的であり、完全に預言が成就するのは「定められた終わりの時」においてであるという。歴史は繰り返すということと、預言の二重の適用の原則を覚えていたい。

・「エルサレムの破滅によって部分的成就を見た預言は、もっと直接的には、最後の時代に適用されるべきものである」(祝福の山 151)。

・同じようにヨエル2章の聖霊降下も弟子たちにペンテコステとして部分的に成就したが「定められた終わりの時」に完全に成就する。(大争闘上序《7》参照)

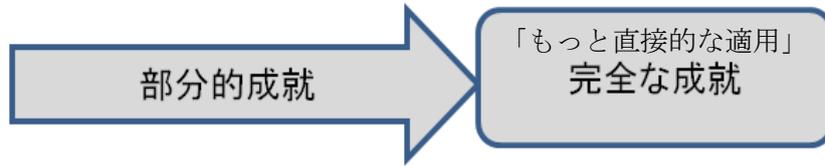
法王至上権の1260年の支配も部分的に成就したが、今度は世界的に完全に1260日間成就する。

- ・1844年に死んだ義人の裁きが始まったが、日曜礼拝強要令から生ける者の裁きが始まる。
- ・1840年代に第一天使、第二天使、第三天使が宣伝され始めたが、今度は「定められた終わりの時」に完全

に「大いなる叫び」となって宣伝される。

- ・1844年にバビロンが倒れたのは部分的であったが、日曜休業令で完全に倒れる。

「定められた終わりの時」



その他聖書の多くの預言が「定められた終わりの時」に完全に成就することを覚えているなら、黙示録の預言の研究がどんなにか我々にインパクトを与えることだろう。

春の黙示録のセミナーに出席した K 兄弟がその感想を送ってきたので皆さんに分かち合いたい。兄弟の証と研究に感謝したい。

7つの封印

Y. K

これは、4月8、9、10日に Dr.ファウラーの講義に出席したときのレポートです。わたしの理解と言葉を用いるため正確でないところがあるかもしれませんが、（また、そのセミナーから受けた私の印象から第五のラッパ、印される時について書き足しているところもあります。）

どうか、その時は、容赦なく私の間違いを指摘してください。『偽りの証人は滅ぼされる、よく聞く人の言葉はすたることがない（箴言 21 : 28）』とありますので。

私は、今こそ、この封印が解かれていき、戦いが激しくなる前に、自分の受けてきた教えと学んでいることを吟味する時だと感じています。皆様のお便りをお待ちしています。

さて、わたしは講義の質問の時間に、2つの質問をしましたが、一つは、「黙示録 6 章 12、13 節で、エレン・G・ホワイトが『各時代の大争闘』でこの聖句をリスボン地震と北米の暗黒日と北米の流星雨にあてはめて引用しているが、どうか？」というものでした。これに対しファウラー先生は、これは預言のマイナー適用であってメジャー適用ではないこと、当時の世代が持つ預言理解としてはふさわ

しいものであったが、われわれの世代が持つ預言の理解としてはふさわしいものでないこと、そして、ホワイト夫人自身が、預言は漸進的に理解が深まっていくことを書いていることを示しました。彼の属する預言研究のチームは彼女の読み物を研究していくと 1890 年前後で彼女の預言について理解が変わっていることを発見したそうです。つまり、このあたりで彼女自身、イエス様の再臨が後の世に起こることを悟ったようです。（そしてそれ以後、彼女はわたしたち世の終わりを迎える世代のために『たずね求め、かつ、つぶさに調べた。（I ペテロ 4 : 10）』）

もう一つの質問は、「預言は順序正しく書かれているものであるなら、黙示録の中で繰り返される預言のその始点と終点を、先生はどのように考えますか？」というものでした。これに対する答えは「時に関しては、ダニエル 8 章から 12 章をまずマスターすることです。」（マタイ 24 : 15）「黙示録の中に事の始まりを示す箇所はわかるが恩恵期間の終わりを示す時についての情報は何もないのです」と言われました。さらに親切にも次の言葉を付け加えられました。「恩恵期間が第五の封印と第六の封印の間、第五のラッパと第六のラッパの間に閉じられる

ことから、第六の封印が解かれ、大地震が起こった時、恩恵期間が閉じられたことを我々は知ることができます。そして、この地震は第六の封印が解かれてから第七の災害が終わるまでずっと続いています。この大地震により『ヤコブの悩みの時』が始まったのがわかります。」このように答えられました。

これらの質問をしたことによって、わたしは、黙示録全体を世の終わりの定められた時の出来事として捉えるように強く勧められていることを知りました。

黙示録 1 : 1,3,6, 3 : 7,8, 4 : 1,2 (エゼキエル 12 : 21~25) これらの聖句は上記をあらわす聖句です。

1 : 1,3,6...「すぐにも起こる」「時が近づいている」は「わたしたちを.. 御国の民とし、祭司」とする時にかかっている。つまりこの書全体が世界歴史と捉えるのではなく再臨直前の出来事と捉えるのが本筋の捉え方。(世界歴史と捉えるのは預言のマイナーな適用:わたしの理解では、預言の前触れとか、神様が預言に目を向けさせるために歴史をわざと繰り返していると捉えています。)

3 : 7,8...1844年10月22日、聖所(第一の部屋)の門が閉じられ、至聖所の門が開かれた。

4 : 1,2...「開かれた門」は至聖所の門、「御座が天に設けられており、(ある方が御座にすわられた: 欽定訳)」は裁きが始まることを示す。それはすなわち、1844年以降であることを意味します。
*ダニエル7章参照: 10節でさばきのため巻物が開かれている。

「七つの封印」「七つのラッパ」は最初の4つと次の2つ、最後の1つに分けられます。そして第六と第七の間に幕間(第七章、第十章)が設けられていますがこの幕間は、それがなければ、預言を解くことができない非常に重要な情報です。

$7 = 4 + 2 + 1$ 。4は一つのグループを表す。2は異なる種類のものである。1は、その一連のものを完成する。

7という数字は、あるものが開かれるまでは知識が嚴重に閉ざされることを意味している。(テキスト13ページより)

(巻物が読めるのは7つの封印がすべて解かれてからです。) テキストの13ページ参照。

七つの封印について第一から第四まで、善と悪との間の闘いにおける主要なプレイヤー(登場勢力)

第五と第六は、サタンとその手先による終わりの時の諸事件

第七は、再臨に関する諸事件。テキストの25ページ。

この七つの封印で封じられている巻物は、黙示録 5 : 1、エゼキエル 2 : 9,10、(詩篇 139 : 16) より悪人の審判に関わるものです。

では第一の封印から順番に見ていきたいと思うのですが、第一の封印から第四の封印を解く鍵は、黙 4 : 6,7 の「四つの生き物」を理解することが必須になります。4という数字は地(全地)に関係があります。(黙 7 : 1、エゼ 7 : 2、マタ 24 : 31) この4つの封印もしかりです。四つの生き物に関連する聖句をしらべるとエゼキエル1の10があり、また民数記2章から、イスラエルの先頭をリードする4つの部族のユダ、エフライム、ルベン、ダンがあり、伝承と聖書からその旗印と配置された方位はユダ:しし:東、エフライム:雄牛(欽定訳:子牛):西、ルベン:人:南、ダン:わし:北です。預言において方位にはそれぞれ意味があります。東は常に救出(救い)、西は背教、南はいろいろな意味があるがここでは回復、北は神の御座がある場所ですが、またサタンがのぼろうしたところ、反キリストを示します。

なぜそうなるのか?

鍵になる聖句はエゼキエル 41 : 17-19 「... おのおの、ケルブには2つの顔があり、こなたには、しゅろに向かって、人の顔があり、かなたには、しゅろに向かって、若じしの顔があり、宮の周囲は、すべてこのように彫刻してあった」、黙示録 7 : 4-8 (12部族の名が記されているところ) この2つです。

エゼキエル書から、ししはユダ、人はルベンですが、エフライムとダンの旗印がありません。

また、黙示録7章12部族の名にもダンとエフライムの名がありません。

列王記上 11 : 26 からヤラベアムはエフライムの出身ですが、同 12 : 25~33 まで見ると恐ろしい描写があります。ヤラベアムはダン部族と結託して「二つの金の子牛を造り」「一つをベテルにすえ、一つをダンに置き」て礼拝させたとあります。以上を考察した上で出た結論ですが、

第一の封印の白い馬(馬:民、特に神の民、馬に軍隊の意味がある:ヨエル2の1-4)は144000、神の精鋭部隊、立ち上がって出て行くセブンスデー・アドベンチストをあらわしています。ししはユダ族、イエス様の属するグループの旗印。



第二の封印の赤い馬は、背教プロテスタントが、登場します。迫害が起こります。「各時代の争闘」の中にもアメリカの背教プロテスタントが政府に政治的に働きかけて日曜休業令を制定することが、書かれています。ヤラベアムがダン部族と結託した描写が思い起されます。牛はエジプトの神、太陽崇拜に関連、またエフライムの部族がホレブで子牛を造った。



「エフライムは偶像に結びつらなつた。そのなすにまかせよ」ホセア 4 : 17。

第三の封印の黒い馬は、その乗り手は「はかりを手に持って」います。(イエス様です。)また、この馬は行動を起していません。つまり待っているのです。真理がのべ伝えられるのを待っている、それまで真理を知らなかったクリスチャンのグループを現しています。(黒 : エレ 4 : 28、8 : 21-22 から悲嘆と死、それは、エレ 14 : 1-2、哀歌



5 : 10 から飢餓つまり霊的食物の飢饉をあらわす) ルベンについては、創世記 49 の 4 で姦淫を犯したことが記されていますが、彼は黙示録 7 章のリストに載っています。つまりここでは背教から回復されるグループを現しています。「小麦一ますは一デナリ、大麦三ますも一デナリ。オリーブ油とぶどう酒とを、そこなうな」とは、この価格は当時相場の 8 倍から 16 倍と大変高い法外な値段になっています。このとき真理を伝えるには、法外な高値を要求されるでしょう。またオリーブ油とぶどう酒をそこなうなとは、霊的幼子のこのグループには(聖霊に満たされて)慎重に伝道するように警告されているとのことです。このグループは黙示録 7 の 9 に書かれている、144000 に続く、「数えきれないほど大ぜいの群衆」です。(黙示録 7 章でも、ユダに続いてルベンが載っている)(ゼカリヤ 6 : 6、背教プロテスタントは法王教に、セブンスデーは背教プロテスタントに、法王教は背教者が改心しセブンスデーにつくの妨げに出て行く。)

第四の封印の青白い馬は、ダン部族の旗印：わし(ルカ 17 : 37、申命記 14 : 12 から不浄の鳥、オバデヤ 4) をもっています。ダン部族についてヤコブの遺言で、創世記 49 : 16,17 に興味深い預言があります。「ダンはおのれの民をさばくであろう。イスラエルのほかの部



族のように、ダンは道のかたわらのへび、道のほとりのまむし。馬のかかとをかんで、乗る者をうしろに落とすであらう。」ダンにはサタンをあらわす、へびであらわされています。わたしは黙示録 13 章の成就と見ています。一連の流れとぴったりあいます。第二法王至上権の確立です。この馬はローマ法王教です。ダン部族の代表的な士師にサムソンがいましたが、彼の最後の仕事は、彼自身を含む周りのすべての人を殺すことでした。

第五の封印までに役者は揃いました。迫害が絶頂に達し、祈りが「叫び」になっています。(「大声で一ラッパに関連)、この叫びにより、神がこれに応えラッパが鳴り始める。「しばらくの間」はギリシア語でクロノン・ミクロン。これは極めて短い短期間で恩恵期間がもうすぐ終了することを示しています。

黙示録の第 7 章は、第五の封印と第六の封印の間にある出来事です。なぜなら、第六の封印の描写はイエス様の再臨を現しているからです。(6 章 16、17 節)。黙示録 7 : 1 「... 地の四方の風をひき止めて、地と海と木とをそこなつてはならない」。これは第一のラッパです。さらに 7 の 3 に「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなつてはならない」とあります。ということは、セブンスデー・アドベンチストの恩恵期間は第一のラッパが鳴る時には、終わるといふことでしょうか？皆様どう思いますか？それ以後、少なくとも第四のラッパまではそれまで神様を知らなかった人の恩恵期間であるとわたしは、思います。(編集者の注：証の書はそう言っている一スタディバイブル新 588)。第五のラッパは恩恵期間が終わる直前になされる『大いなる叫び』を聴いても悔改めない人が「底知れぬ所の穴」に落ちることを意味すると私は捉えているからです。(第一、第二、第三、第四のラッパは、自然界からの神の援護射撃で、第五のラッパのメッセージを受け入れやすくする。)そして、すべての人の恩恵期間が閉じられます。

第六の封印は、大地震をもって始まります。このことによって「ヤコブの悩みの時」が始まったことを知ることができます。冒頭の質問の件でも書きましたが、最初の神の顕現であるシナイ山でも、地震と雷と暗黒がありました。この顕現があるとき、神が創造者、支配者、主権者として人間の歴史に何か劇的なことをもって介入されることを意味します。16、17 節「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」。これはイエス様のご再臨の光景です。

第七の封印を解いた時、半時間ばかり天に静け

さがあった、とあります。

マタイ 25 : 31 より、天に誰もいないから静寂なのか？しかし、すでに第六の封印の時にも天には御使いはいませんでした。

手がかりになる聖句、ゼカリヤ 2 : 13、詩篇 46 : 10、詩篇 62 : 1「主の前に静まれ」とあります。これは救いに関するようです。天の静けさとはこの畏怖の表現だと考えられます。

ホワイト夫人もヨハネと同じ経験をしているというのです。つまり天国の素晴らしさを描写する言葉が見当たらなかったと書いています。

第七の封印が解かれたとき、わたしたちはイエス様のみ顔を仰ぐのです。そして、わたしたちは天国に行く七日間の旅路(仮庵の祭りの実体)において、喜びと畏敬の念と驚きのあまり一言も発することができない、そのような時なのです。

追記:4月8日から10日に参加したセミナーは、わたしに預言の学びをする転換点となりました。それまでの「解けたなら本当に良いのに」という思いから、「これは我々の世代が解かなければいけない宿命にある」と思うようになりました。

もう、かなりの点について、解かなければならない点が、解明されていることを知り同時に、預言の解明こそ、ふるいの時の前にしなければならぬ準備であると強く感じるようになりました。

わたしたちセブンスデー・アドベンチストは聖書の御言に根拠を置く民です。もし、自らの表明している信仰を自分の口で聖書から説明できないなら、ほぼ間違いなく世の強烈な圧力の前に屈せざるをえないでしょう。これがサタンの怒りです。ネブカデネザル王は言いました。「わたしの言うことは必ず行う。あなたがたがもしその夢と、その解き明かしを、わたしに示さないならば、あなたがたの身は切り裂かれ、あなたがたの家は滅ぼされる。…」。「…もしその夢をわたしに示さないならば、あなたがたの受ける刑罰はただ一つあるのみだ。…」と挑戦されています。これは、神の民のテストの一連の流れの第一関門です。ここで、霊の戦いをする意味を悟ってなければ、後の実体の霊の戦いでは、どれ程、無知の状態で戦いに臨まなければいけないか知って愕然とすることでしょう。

ホワイト夫人が1889年12月24日に書いた。RHの3ページ(「前途の危機4ページ」)にあるものですが、興味深い文章があります。以下に書きます。

「私にはこれらの事柄の多くが示されてきたが、あなたがたにはほんの少しの見解だけしか示すことができない。あなたがた自身のために、神のみもとに行き、天よりの啓示を祈り求めなさい。そう

すればあなたがたは、何が真理であるかを知ることができる。つまり、サタンの驚くべき奇跡の力が見せられる時、そしてその敵が光の天使としてやってくるであろうその時、神の本物の働きと、暗黒の力の模倣の働きを識別することができる。」

どうして全部示してくれないのですか？わたしたちのためです。

わたしはこれを読んだ時、預言を解くことが、わたしたちの信仰のテストであることを悟りました。

彼女は書きたかったのです。私たちのために、しかし神様は、それは私たちのためにならないことをご存知でした。

それは、これがわたしたちの信仰を増加えるためのテストだからです。

それでも、これがテストであることの手がかりをわたしたちのために記すことを許されました。

これがわたしの見解です。

皆様の忌憚なきご意見をお待ちしています。

最後に祈ります。

父なる神様、御名が崇められますように 御国がきますように 御心の天になるごとく地にもなりますように

私たち一同のものがかつてどの世代にも見られなかった熱心さを持って祈り求めて預言を学び時の厳粛さがかつてなかった程、厳粛に受け止めることができますように、どうか私たちひとりひとりをお恵みください。

聖書全体を通して最も多くのページをさき記されている預言がまさにわたしたちのためであることを誠に畏怖の念をもって感謝します。どうかわたしたち一人一人にダニエルの悟りの霊をエリヤの熱心の霊をモーセの動かされることのない霊を与えてください。このお祈りを愛する救主イエス様の御名によりお祈りします。アーメン

2008年4月30日





王家の紋章

—自己犠牲の愛—

砂川 満

「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」(ヨハネ 15 : 13)。

これは有名な聖句だと思いますし、私自身、若い頃から知っていましたが、最近になって、この聖句についてこれまで以上に深く考えるようになりました。それは、次のような言葉に出くわしたのがきっかけでした。

「心を尽くして神を愛し、隣人を己のように愛する人たちだけが、法令というテストに耐えることができるでしょう」(1885年11月14日にノルウェーのクリスティアニアで語られた説教より)。

これは、ホワイ夫人がある説教の中で語った言葉です。上の文の前後関係を見ると、ここで述べられている法令というのは、日曜休業令のことであることが分かります。セブンスデー・アドベンチストならば、日曜休業令が私たちにとって最後のテストとなることを知っている人は少なくないでしょう。但し多くの信者が、日曜休業令〔SundayLaw—日曜遵守令〕とは、法王教の申し子である日曜日〔Sunday〕すなわち太陽の日を遵守するか、それとも創造の記念日である第七日安息日を遵守するかをすべての人が問われるテストであると考えているのではないのでしょうか。私自身もそのように考えていました。ですから、日曜休業令というテストについて、別の観点から説明している上の文には、驚きを覚えたわけですね。預言者が語ったこの言葉は、単に日曜日か土曜日かではなく、もっと深い意味があることを私に示してくれました。勿論、第七日安息日を守るというのは、神の律法の重要な一部を占

めています。そして終わりの時代に、残りの民は、第四条を含む神のすべての律法を守るようになる、言い換えれば、罪を犯さなくなると言われています (Iヨハネ 3 : 4 参照)。神の律法は神の統治の原則であり、神のご性質は愛です (Iヨハネ 4 : 8 参照)。その愛のお方が、究極の愛の一つの表現として、ヨハネ 15 章 13 節のみことばを語られたのでした。

ちなみに、ホワイ夫人が述べた上の言葉の半分は聖書からの引用であることも、多くの方々がお気づきになられたことでしょう。ご存知のように、新約聖書の中でイエスが述べられた言葉を引用しているわけです。マタイ、マルコ、ルカによる福音書の三箇所に記載していますが、代表して、マタイによる福音書から引用します。

イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これら二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」(マタイ 22 : 37-40)。

先に挙げた預言者の言葉を見ると、日曜休業令と関連づけて、ホワイ夫人がイエスの言葉を引用していることが分かりますし、イエスもまた、ある律法学者からの質問を受けて、旧約聖書を引用しておられることが分かります。旧約聖書には、「心をつくし・・・」という言葉遣いが数多く出てきますが、恐らくイエスは、申命記から引用なさっただろうと思われれます。「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならぬ」(申命記 6 : 5)。隣人を愛するというに

関しては、レビ記に書かれています。「あなたは心に兄弟を憎んではならない。あなたの隣人をねんごろにいさめて、彼のゆえに罪を身に負ってはならない。あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない」（レビ記 19：17-18）。

愛の源であられ、愛のうちに律法を制定されたお方が、律法全体を集約しているものとして、モーセの書からこれら二つの聖句を引用なさったわけです。神を愛するということについて、マタイ、マルコ、ルカによる福音書、そして申命記のみことばをまとめると、私たちは、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を愛するように求められていることが分かります。愛する対象が神であれ人であれ、愛には行動が伴うはずで、「アイラブユー！」と言うだけでは、単なる口先だけの、偽りの愛になってしまいます。特に「力をつくして」という表現は、その愛の行為を促してはいないでしょうか。「わたしたちは、心をつくし、思いをつくし、精神をつくして神を愛するだけでなく、力をつくして愛さなければならない。これは、身体的能力を十分に知的に活用することである」（実物教訓 324）。

神の言葉は実にバランスがとれていて、逆にどんなにすばらしい行為を示しても、その動機に愛が存在しなければ無意味であるとも教えています。「たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である」（I コリント 13：3）。

多くの神の民が、日曜休業令という最後のテストを、どちらかといえばネガティブに、つまり消極的に、マイナス思考で捉えてはいないでしょうか？「日曜休業令がやってくるときに、第七日安息日を守っていたら、全財産を奪われたり、投獄されたり、あるいは生命をも危険にさらされることになるかも知れない」という具合に、きたるべき迫害のことばかりを心配してはいないでしょうか？「自分はかつてないほどの迫害の時代を耐え抜く自信はない」と考えて、憂鬱な気分になることはないでしょうか？そのような観点で終末事件を捉えてしまうと、「その事について考えないようにしよう」と努めたり、さらには「日曜休業令などというものは起こりっこない」と結論づけたりしてしまう危険に陥りかねません。しかし恵み深い神は、私たちが希望と勇気をもって最終時代に臨むことができるように、「わたしたちの救いが、初め信じた時よりも、もっと近づいている」との確信に満たされて信仰生活を歩むことができるように、みことばを通してたくさんの励ましを与えてくださっています。セブンスデー・アドベンチストが宣布すべき最後のメッセージは、第一、第二、第三天使の使命であります、こ

れらの警告のメッセージを正しく捉えるためにも、みことばが提示している、バランスのとれた愛を学ぶ必要があると思うのです。

神が私たちに提供しておられる愛は、罪深い私たちに元来備わっているものではなく、故に、そのような愛が自然に内から沸き出ることはありません。神が示してくださった何らかの方法に従うことによって、神からそれをいただくなくてはいけないのです。

昔から、「親というのは、子供のためには自分の命さえも捨てることができる」と言われています。果たしてその通りでしょうか？私自身、親になってこの事についてますます切実に考えるようになりました。「自分は親として、わが子のために命を捨てられるだろうか？」と自問したときに、そのような切羽詰った状況に置かれるまで、自分がどのような行動をとるかは分からない、というのが正直な答えでした。ましてや隣人（つまりは赤の他人）のために、一つしかない生命を犠牲にできるだろうかと問うた時に、とてもそのような自信はないと思いました。少なくとも今のままでは無理だろう、というのが正直なところでした。

しかし、アメリカで聴いたある講演の中で、とても興味深いことを耳にしました。私にとって、深い感銘と慰めを与えてくれる言葉でした。神の愛をいただくための、大きなヒントを得たような気がしました。その講演の中で、講師は次のように言っていました。「生命あるいは生涯（生命も生涯も英語では LIFE）というのは、時間という単位に換算することができる」。つまり、一瞬一瞬という時間の積み重ねが、生涯あるいは生命を構成しているのです。ですから、もし私たちが、隣りびとのために幾分か的时间でも費やすことができるなら、それはまさしく、私たちがその人のために自分の生命の一部を与えていることに他ならないというわけです。これは、私にとって大きな慰め、また励みになりました。現時点で、私は隣人のために命を捨てるほどの愛と勇気を持ち合わせてはいないかもしれませんが、助けを必要としている人のために、少しばかりでも自分の時間を割くことは大いに可能だと考えたわけです。隣人の必要に応じて、時間を割いて自分の能力を用い、あるいはエネルギーを注ぎ、あるいは金銭を費やすことを、自分のできる範囲でいわずに実践するならば、それもまた私たちの命を隣人に与えるという、愛の行為の一つの形ではないでしょうか。そのような生き方を実践することによって、私たちは、究極の愛すなわちイエスの愛を身に付けるという最終目標に向かって成長し続けるのではないのでしょうか。

「キリストの実物教訓」の中に「タラントの正しい使い方」という章があります。そこには、様々な形のタラント（英語では talent 一訳せば生来の才能、

天分)について書かれています。知能、ことば、感化、健康、金銭などのいろいろなタラントと並んで、時間が挙げられています。これらのタラントを用いて、私たちは神と隣人のために尽くすことができるわけです。

マタイによる福音書の25章に、タラントの譬え話が出てきます。「また天国は、ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで自分の財産を預けるようなものである。すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて、旅に出た」(マタイ25:14-15)。五タラントと二タラントを託された僕たちはどうしましたか？それぞれのタラントを倍に増やしましたね。彼らは、自分たちに財産を託してくれた主人に感謝し、敬愛する主人の利益を最優先事項とし、「これを資本にして商売をし、ご主人様に喜んでもらおう」と考えた末、活用して儲けたわけです。その結果、彼らは主人に喜んでもらうことができ、賞賛の言葉をもらいます。一タラントを託された僕はどうでしたか？簡単に言えば、何もしてませんでした。なぜですか？自分のことしか考えていなかったからです。この一タラントを失ったら大変なことになる。自分に大きな不利益が及ぶことを心配したので、結局この一タラントについては何もしないことに決めたわけです。この僕は、主人からどのような評価を受けたのでしょうか？「悪い怠惰な僕」呼ばわりされて、持っているものまでも取り上げられてしまいました。キリストも、私たちを同様に扱われると思います。私たちが神を愛し、神から受けた愛をもって隣人を愛し、金銭であれ、エネルギーであれ、能力であれ、時間であれ、これらのタラントを用いる時に、キリストは私たちに大いに喜ばれて、ますますその愛のご性質を私たちに分け与えてくださるのではないのでしょうか。

「活動は生命の法則である。・・・たまものは、他を祝福するために活用するならば増加する。ところがそれを、自己のために閉じ込めてしまえば、減少して遂には取り去られてしまう。自分の受けたものを分け与えることを拒む者は、ついに与えるものがなくなってしまいます。これは魂の能力を弱め、ついには滅びにおとし入れてしまう自滅の道である」(実物教訓 341)。

次に、「国と指導者」からお読みします。「・・・神は、われわれが神への奉仕をわれわれの生活の第一のものとし、この地上において、神の働きを進展させるために、一日に何かを必ず行うことを求めておられる・・・必要なのは生涯とそのすべての影響力とを献げることである。このような献身をする者は、天の神の召しを聞いて、従うのである」(国指上 189)。影響力もタラントの一つに挙げられてい

ますね。生涯とは、言うまでもなく時間のことです。一瞬一瞬という時間の積み重ねが、生涯を構成するわけですから。

次に、「各時代の希望」からお読みします。「われわれは、苦しんでいる魂のそばを通りすぎる時にはかならず、自分自身が神から慰めてもらった慰めをその魂に与えるようにつとめなければならない。・・・神の民が、どんな人に対しても同情と親切と愛とをあらわすとき、彼らはまた天の規則の性格についてあかしをたてているのである。・・・この愛をあらわさない者は、彼があがめっていると告白している律法を破っているのである」(希望中 309)。日曜休業令というテストに合格する人たちは、神のすべての律法を守るようになります。ですから律法を破る人は、法令というテストに耐えることはできないわけです。「なぜなら、われわれが兄弟たちに対してあらわす精神は、神に対するわれわれの精神がどんなものであるかを宣言しているからである」(同上)。

マタイによる福音書25章の別の譬え話の中で、キリストは救われた人たちに向かって、「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに訪ねてくれた」と言われました(マタイ25:35-36)。救われた人たちは、「私たちがいつそんな事をしたのでしょうか？」と尋ねるわけです。救い主は次のように答えられます：「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と(マタイ25:40)。聖書は、みなしご、やもめ(寡婦)、家のない者(ホームレス)、貧しい者、病気の者、旅人に対して情け深くあるようにと、あちらこちらで教えています。このような人たちに対して、私たちはそれほどめざましい形で助けの手を差し伸べることはできないかもしれません。しかし、私たちの持てる少しの時間、労力、金銭、能力などを用いてこのような人たちに奉仕することができるならば、天の神は私たちの奉仕を喜ばれるのではないのでしょうか。

殊に時間は、誰にでも平等に与えられていますね。その時間を、神のために、隣りびとのために少しでも割くことができるかを、私たちは問われていると思います。私たちの生涯を如何に意義あるものとするかは、各々に与えられた奉仕の機会を捕らえて、自分に与えられているタラントが何であれ、それらを最大限に活用することによって、神の栄光を表すかどうかにかかっているのではないのでしょうか。神の栄光とは神のご品性であり、私たちは神のご品性にあずかることによって、神の栄光を表すのです。

親が子供を生んだら、それで親の仕事が終わるわ

けではありません。子供が生まれたら、親はその子のために、莫大な時間とエネルギーをつぎ込みます。親は子供を育てるために、どんな犠牲でも喜んで払います。そのようにして我が子に愛情を注ぐことによって、つまり自らの命を子のために削ることによって、親はいつの間にか、(クリスチャンであろうとなかろうと)子供のために命をも惜しまないほどの愛情を自らのうちに育てていくのではないのでしょうか。ですから、生みっぱなしで親の責任を果たすことなく、何の犠牲も払おうとしない人に、子供のために命を捨てるほどの愛情が育っているとはとても思えません。まして私たちクリスチャンは隣りびとに対しても、愛の行為を実践することによって高貴な愛を培っていくべきだと思うのです。「御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない」(ガラテヤ5:22-23)。御霊の実を結ばせなければ、まずは育てなければいけません。

さらに高いハードルといったら語弊があるかもしれないませんが、神は「友のために自分の命を捨てること」と並んで、極めて高潔な愛の行為を、別のみことばを通して私たちに求めておいでになります。それは、次の聖句です。「・・・敵を愛し、迫害する者のために祈れ」(マタイ5:44)。

自分に良くしてくれる人を愛するのは簡単です。自分の子供、親、兄弟を愛するのは簡単なことです。自分に好意を寄せている人を愛するのも、難しいことではありません。しかし敵を心から愛するのは、決して容易なことではないはずで、「敵」とは「自分に害をなす者、かたき、あだ、戦いの相手、自分と争う者」(広辞苑)のことです。キリストは私たちに、できない事を要求しておられるのでしょうか？イエス・キリストの生涯をたどれば、彼がそのような高貴な愛を身に付けておられたことは明らかです。幼い時分から十字架の死に至るまで、イエスは敵をも包み込むほどの愛を実践してこられました。十字架上で語られた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23:34)との祈りに、それが集約されていると思います。

たまに、博愛主義者と称する人が、「私には敵はいない」とうそぶいていますが、それは間違いです。「敵を愛せよ」と言われているからには、人生において敵の存在は避けられないのであります。勿論、わざわざ敵を作る必要はありませんし、好んで争いを引き起こすべきでもありません。でも、人に迷惑をかけられたとか、人から何らかの害を被った経験は誰にでもあるはずで、私たちに害を及ぼす人は、敵と定義づけられるわけです。パウロは、「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」と言っています(Ⅱテモテ3:12)。無論、迫害者も敵であります。したがって、イエスにも数多くの敵がいました。私た

ちが問われているのは、敵がいるかないかではなく、自分に敵意を向け、害を及ぼし、迫害してくる人をも愛せるか、その人のために祈れるかどうかであります。自分にそれができるかを心配する前に、御約束を信じましょう。「キリストの命令は約束である」(希望中111)。パウロと共に、「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができると言いたいものです(ピリピ4:13)。

人生三十年から五十年も生きている人なら、誰もが自分の善意が報われなかった経験をしたことがあるはずで、せつかくの好意が無駄になったと思われる経験—「良かれと思ってやってあげたのに、かえって憎まれた」とか、「恩を仇で返された」とか、「あんなに親切にしてあげたのに、全然感謝されなかった」というような目には、誰もが遭われたことがあるはずで、そのような時、自然の感情として心が傷ついたのではないのでしょうか。傷つくだけならまだしも、はらわたが煮えくり返るほどの憤りを抑えることができなくて、よけいに苦しんで落ち込んだことがあるかもしれません。そのような時、「祝福の山」の93ページに、私は解決を見出すことができました。そこには、クリスチャンが敵をも愛すべき動機が記されています。まず目に飛び込んできたのが、「全人類を包含する愛」という言葉でした。すべての人をも包み込む愛とは、果たしてどのようなものなのでしょう？

「感謝の気持ちのない者や悪しき者に親切を尽くし、何も当てにしないで善をなすこと—これが天の王家の紋章であり、いと高き者の子らがその高い身分を明らかにする確かなしるしである」(祝93)。

言い換えれば、恩知らずや敵に親切を尽くし、好意に好意が返ってくることを期待しないでなおも好意を示してあげることこそ、それを実践する人たちが天の王家の一員であることをあらわす家紋であり、その高貴な身分を示すしるしである、ということです。この事を覚えている限り、どんなに私たちの善意が報われないような経験をしても、決して感情を害することはありません。傷つく必要も、腹を立てる必要もなくなるわけです。かえってこのような経験をすると、「ああ、神様はこのように私でも子供として、天の家族の一員として受け入れてくださっているんだ」との思いに浸って、感謝することができるとは、

「・・・敵を愛し、憎む者に親切にせよ。のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ。あなたの頬を打つ者にはほかの頬をも向けてやり、あなたの上着を奪い取る者には下着をも拒むな。あなたに求める者には与えてやり、あなたの持ち物を奪う者からは取りもどそうとするな。人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛して

くれる者を愛している。自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。また返してもらうつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き者の子となるであろう(これこそ天の王家の紋章です)。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いからである」(ルカ6：27-35)。

「・・・イエスは幼い時から一つの目的を持っておられた。それは他人を祝福するために生きるということだった」(希望上 63)。

「われわれの意志が神のみこころのうちに没入し、他人を祝福するために神の賜物を用いるとき、われわれは人生の重荷を軽く感ずる」(希望中 52)。

「・・・他を祝福しようと努力することによって、われわれは幸福になる」(あけぼの下 184)。

キリストの模範に倣った自己犠牲の生涯は、決して損な生き方ではなく、かえってこの上ない幸福感を与えてくれるものであると、みことばは明言しています。そして神は、そのような生き方をする者にこの世における真の幸せを保証しておられるだけでなく、天の家族にふさわしい完全な品性をも約束しておられるのです。

「神は、神の子らに完全を求められる。神の律法はご自身の品性の写しであり、またすべて品性の標準である。神がどのような人びとによってみ国を構成なさるかについてだれもまちがいをしないように、この永遠の標準がすべての者に与えられている。キリストの地上生活は神の律法の完全な表現であった。そして自分は神の子であると表明する者の品性がキリストのようになれば、彼らは神の戒めに従うのである。そのとき主は、天の家族を構成する一員として彼らを信頼することがおできになる」(実物教訓 294)。

「人を助け、人を恵みたいという衝動が絶えず心からわき出るときに、クリスチャン品性は完成する」(患難下 254)。

悩みの時にあって、私たちは困難と迫害のただ中を生き抜くことになるのか、それとも殉教者として生涯を終えることになるのか、神のみぞ知ることあります。どちらの運命が待っているかと、神の側に留まっている限り、私たちは隣人のために命を捨

てることをいとわず、迫害する者に恨みを抱かない愛を神からいただいていることでしょう。故に、将来を恐れ、心配する必要はなく、現在の愛と勇氣に欠けた状態を嘆く必要もないわけです。神の恵みのうちに歩み、成長を続けている限りは・・・

「我々は、昔の殉教者たちが置かれた立場に置かれるまで、彼らの勇氣と不屈の精神を持つことはない。・・・我々は日ごとに、それぞれの日々の急場をのりこえるための恵みの供給を受けるべきである。こうして我々は、主イエス・キリストの恵みと知識のうちに成長するのである。そして、もしも迫害が我々に臨み、イエスの信仰のために、また神の聖なる律法を守るために牢獄に入れられねばならないとしたら、『あなたの力はあなたの年と共に続くであろう』。迫害が再びやってくるならば、真の英雄的資質を示すため、魂の全エネルギーを喚起するほどの恵みが与えられるであろう」(我らの高き召命 125—英文)。

最後にペテロの挨拶の言葉をもって、メッセージを締めくくりたいと思います。

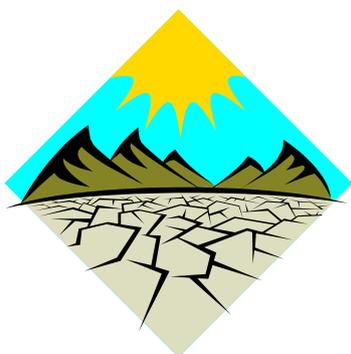
「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。これらのものがあなたがたに備わっていよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう」(Ⅱペテロ1：2-8)。



NOW THAT'S GOD!

小さな子の奉仕から学んだ神の愛

乾季に入ってから、最も暑い日のことでした。もう一ヶ月近くも雨が降っていませんでした。農作物は乾ききっていました。牛も、乳が出なくなりました。小川という小川は、すべて干上がってしまっていました。それは、過去に例を見ないほどの特に深刻な乾季で、多くの農場が破産に追い込まれるほどでした。毎日、私の夫と彼の弟たちは、畑の水を確保するのに大変な苦勞を強いられていました。トラックに乗って町の水道局へ行き、そこからタンク一杯の水を買ってくるといった日々が続きました。しかし、水の配給量は日増しに減らされていきました。近いうちにまとまった雨が降らなければ、すべてを失ってしまうところまで追い込まれました。このように、前途の見通しが全く立たない状況にあった矢先に、奇しくも私は、真に分け合うことについての教訓を学び、すばらしい奇跡を目の当たりにすることになったのでした。

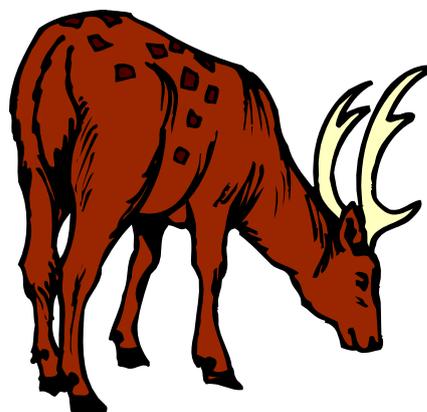


私が台所で、夫と義理の弟たちのために昼食の用意をしている時でした。私の六歳の息子ビリーが、森に向かって歩いているのが見えました。いつもの軽やかな足どりではなく、ある深刻な事情を抱えている様子でした。見えるのは、彼の後ろ姿だけでした。でも明らかに、歩くのにとっても苦勞していました。できるだけ静かに、忍び足で歩いている、といった感じでした。彼の姿が森の中に消えてから何分かたった後に、家に駆け足で戻ってきました。彼が何の目的で森へ行ったのかは分かりませんでした。それが何であれ、任務が完了して戻ってきたのだろうと私は考えました。ところが、しばらくたってから外を見ると、息子が再び、ゆっくりとした真剣な足どりで森に向かって歩いているではありませんか。ゆっくりと森に向かって歩いてから走って戻ってくるといった作業が、一時間も続きました。

ついに、我慢ができなくなった私は、こっそりと家から外に出て、息子の後をつけることにしました（彼は明らかに重要な任務にたずさわっており、母親のおせっかいは無用だと分かっていたので・・・気づかれないように細心の注意を払いました）。森

に向かって歩いている彼の両手は、手の平を上に向けて、コップの形を形成していました。手の中に入っている水がこぼれないように、細心の注意を払っていました。恐らく、彼の小さい手の中には、大さじ二杯か三杯の水しか入っていなかったことでしょう。私は、森に入って行った息子に、こっそりと近づいていきました。枝やとげが、彼の小さな顔に容赦なくあたりますが、それらの障害物を避けようとはしません。重要な任務にたずさわっているため、そんな物には構ってられないといった様子です。

極秘の偵察任務についていた私は、最も驚くべき光景を目の当たりにしました。息子の前方では、数頭の大きな鹿が彼を待ち受けていました。ビリーは何のため



らいもなく、鹿たちに近づいていくではありませんか。私は思わず叫び声を上げそうになりました。立派な角を生やした一頭の巨大な牡鹿も、彼のすぐ近くにいます。ところがその牡鹿でさえ、息子を威嚇しようとはしません・・・ビリーがそのすぐ正面にひざまずいても、ただじっとしていたのです。息子がひざまずいたその場所には、小さな子鹿が横たわっていました。その子鹿は、脱水症と熱中症で動けなくなっていました。子鹿は、必死で頭を持ち上げて、息子が手のコップで運んできた水を飲んでいました。水がなくなると、彼は飛び上がって、家に走っていきました。木の陰に隠れていた私も、彼の後についていきました。我が家には貯水タンクがあり、ビリーはそのタンクの栓をいっばいに開けましたが、タンクはほとんど空っぽなので、水はわずかにちょろちょろとしか出ません。彼はそこにひざまずき、わずかばかりの水滴を、手で作った間に合わせのコップに入れていました。彼の小さな背中を、容赦なく太陽が照りつけます。その時、私は一週間前の出来事を鮮明に思い出しました。息



子がホースで水を流して遊んでいたの、私は彼をきつく叱ってから、水を無駄にしないことの大切さについて、こんこんと諭したのです。両手が水でいっぱいになるまで二十分近くかかりました。彼が立ち上がって森に戻ろうとしたとき、私は彼の前に姿を現しました。

息子の目から涙があふれ出てきました。彼の口から出た精一杯の言葉は、「ボクは水を無駄にしないよ」との一言でした。彼が再び歩き出したので、私も台所にあった小さな水の容器をもってきて、彼と一緒にゆっくりと歩きました。子鹿の世話をするのはビリーの仕事です。私は少し離れたところに立って、生涯で見た最も美しい光景を眺めていました。他の生命を救うために懸命に労することをいとわない息子の美しい心が、私の心を激しく打ちました。涙が私の頬をつたって地面に落ちました。涙が次から次へとあふれ出て、その水滴が地面に当たります。ふと気がつく、さらに別の水滴が次から次へと地面に当たっている



はありますか。見上げると、それはまるで、神様が嬉し涙を流しておられるかのよう

に、空から大粒の雨が落ちてきていました。

「それは単に偶然が重なっただけだよ」とあ
る人たちはおっしゃるかもしれません。「これは本当の奇跡ではなく、たまたまその時に雨が降ることになっていたんだ」と言われるかもしれません。そのような主張に対して、私は上手に反論することはできません。また反論するつもりもありません。ただ一つ言えるのは、あの日の雨によって、私たちの農場が救われたということです。小さな男の子の行った行動が、別の小さな命を救ったように・・・

この記事をごなたが読んでくださるは分かりませんが、幼くして永い眠りについた、ビリーとの美しい思い出をできるだけ多くの方々と分かち合いたくて、これを送り出すことにしました。息子が早くに取り去られたことは残念ですが、あの日私は、日に焼けた息子のあどけない顔に、神様の情け深い表情を見ることができたのです。

神のみわざ

あるとき突然、自分の大切な誰かのために、何か

いいことをしてあげたいと思ったことはありませんか？

それは神のみわざです！神は聖霊を通して、あなたに話しかけるのです。

孤独感にさいなまれ、このやるせない気持ちを、神以外の誰にも伝えることができないと感じたことはありませんか？

それは神のみわざです！神はあなたにどんな事でも打ち明けて欲しいと望んでおられます。

長い間会ってもいなかった人のことを突然思い出し、それから間もなくして、その人にばったり会ったり、その人から電話がかかってくることはありますか？

それは神のみわざです！神にとって、偶然などありません。

思いもよらぬすばらしい贈り物を受け取ったことはありませんか？お願いもしていない人から送金があったり、不思議な方法で借金が帳消しにされたり、欲しかったけれども手が出ないと思っていたある品物を売っているデパートの商品券が届いたりしたことはありませんか？

それは神のみわざです！神はあなたの心の中の願いをもご存知なのです。

八方ふさがりの苦しい状況に追い込まれて、どのようにその難局を乗り切ったのか、今でも説明がつかない、といったようなことはありませんか？

それは神のみわざです！神は私たちが輝かしい日を迎えることができるようになるために、暗い夜を経験することをお許しになるのです。

この記事は、偶然あなたのもとに届いたと思いませんか？いいえ！

どうかこの記事を送って、神の偉大なみわざを、他の人々と分かち合ってください。私たちが何をやるにおいても、神にすべてを委ねる必要があります。ここに表されている感謝と祝福が幾倍にも増し加えられますように！

神のみわざを覚えてください。

人生の嵐が大きすぎることを神に訴える前に、神がどれほど偉大な方であるかを、嵐の中であって思い出してください。

祝福に満ちた日をお過ごしください！

神はあなたを愛しておいでになります！

(初代沖縄ミッション部長、E・E・ジェンセン先生からのEメールより)

新刊書案内

2008年春季セミナーの収録集

“黙示録の終末的適用” Dr. ファウラー他

- テキスト 価格: ¥800(税込)
- DVD【23枚】価格: ¥9,200(税込)
- CD【23枚】価格: ¥5,750(税込)
- MP3【DVD-DATA1枚】価格: ¥1,840(税込)

※カセットテープでの配布はいたしておりませんので、ご了承ください。

① 救いの喜び(1) 津島山繁／② 黙示録の構造—神のみ座を囲む生き物 Dr.ファウラー／③ ダニエル8-12章の預言—質疑応答 Dr.ファウラー／④ 救いの喜び(2) 津島山繁／⑤ 7つの封印の巻物 Dr.ファウラー／⑥ 致命的な傷を受けた獣—癒された獣 Dr.ファウラー／⑦ 復讐とまともな 金銭量得／⑧ 7つの封印への序論 Dr.ファウラー／⑨ 救いの喜び(3) 津島山繁／⑩ 第一の封印—白い馬 第二の封印—赤い馬 Dr.ファウラー／⑪ エキュメニカル運動の進展 Dr.ファウラー／⑫ 救いの喜び(4) 津島山繁／⑬ 第三の封印—黒い馬 第四の封印—青白い馬 Dr.ファウラー／⑭ 偉大なる神 Dr.ファウラー／⑮ 復讐とまともな 金銭量得—教科研究 津島山繁／⑯ 礼拝讃歌—われらの高きを召し Dr.ファウラー／⑰ ダニエル8&9章の解釈と新神学 Dr.ファウラー／⑱ 第三の封印—乗鞍者の叫び Dr.ファウラー／⑲ 天の都を目指して—音楽プログラム／⑳ 第六の封印—ヤコブの悩み Dr.ファウラー／㉑ 70週の『最後の週』終末的適用 Dr.ファウラー／㉒ 144,000—彼らのこと／Dr.ファウラー／㉓ 第七の封印—天に沈黙 Dr.ファウラー



預言の霊の研究と 使用に関する指導原理

アーサー・レ・ホワ介

価格:100円(税込)



パイナップルストーリー

バプアニューギニア宣教物語
オットー・コーニング

価格:300円(税込)



本誌アンカーで連載したパイナップルストーリーの小冊子版。道徳感の低いと思われた人々の中に置かれて、はじめて自分が自称クリスチャンであることに気づかされた宣教師の尊い体験。なかなか自分の誠意に答えてくれない人々にどのように接していったか? 笑いも感動の証。

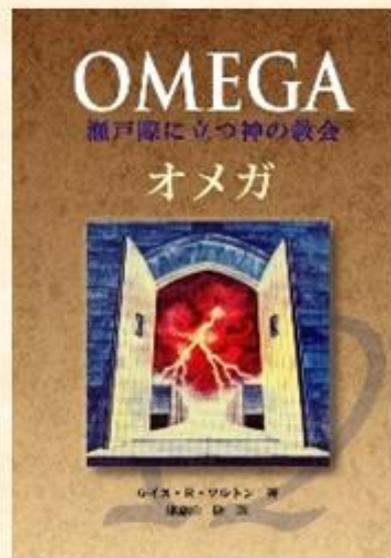
瀬戸際に立つ神の教会

オメガ

ルイス・R・ワルトン著

「歴史は繰り返す」。「19世紀初頭、セブンスデー・アドベンチストの教会は致命的な危機に直面した。背教のアルファの大氷山は教会を危うくも沈没させるところであった。しかし、背教が顕になった時、預言者の「体当たりせよ」との勧告によって救われた。E. G. ホワイトは恩恵期間終了の直前に、背教のオメガが来ることを預言された。彼女を「身震いさせた背教のオメガは、SDAの堅固な土台を突き崩そうとするものである。弁護士、ルイス・ワルトンは、今我が教会はこの背教のオメガに直面していると警告する。徐々に気づかれずに近づいている背教の大氷山。教会は生き残れるか? この本は永遠の運命が決定される事件に直面する信徒必読の本である。

価格:800円(税込)



Anchor
www.srministry.com

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471

TEL: 0980-56-2783 FAX: 0980-56-2881

Email: contact@srministry.com www.srministry.com

郵便振込番号: 02080-0-12121 サンライズミニストリー

サンライズ・ミニストリー刊行誌 「アンカー」の目的と編集方針

Published By Sunrise Ministry Okinawa JAPAN

我々は次のことを信じてアンカーを出版している。

1. 我々SDAの教会と使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 第三天使の使命は人々をキリスト再臨の栄光の前に立ち降る特別な福をさせるものである。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な福を受ける。(初代文集 414, 5, 7)
4. 我々は神のご計画されたこの特別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年(未) (RH26, 1890年)

5. ダニエル書8: 14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生かされる人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは監督の預言者と同様の聖霊が与えられた預言者である。(1SM 36)
7. 最後の時代の憲に押し流されないようにさせるアンカー(箱)は、三聖の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの墓(預言の壘)等である。(初代文集 417, 1T 300)
8. アンカーはリレーの最後継ぎの意味もある。この世代は福音の教会が福音の中に、外の世界に光成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が経

ばされ、イエスの十字架の苦しみを確信している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による憑依の体験によって、再臨を準備することをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の、懸望は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に願いたいと思う。

9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「預言の民」である。たとえ教会がどんなに背教しようとも、苦しい試みの経験を通して、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。